

令和 5 年度

水産多面的機能発揮対策活動報告書

令和 6 年 3 月

福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会

目次

I. はじめに	1
II. 福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会の活動	2
(1) 福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会の役割	2
(2) 事業経過報告	2
III. 福井県内の活動組織	3
(1) 県内活動組織一覧（概要）	3
(2) 各活動組織の紹介	4
① 安島マリンプロジェクト（坂井市）	4
② 崎生態系保全活動グループ（坂井市）	5
③ 梶生態系保全活動グループ（坂井市）	6
④ 米ヶ脇里海を守る会（坂井市）	7
⑤ 浜地里海を育てる会（坂井市）	8
⑥ 三国沖の海を見守る会（坂井市）	9
⑦ 勝山九頭竜川環境ネットワーク（勝山市）	10
⑧ 日野川環境整備協議会（越前市）	11
⑨ 敦賀河川を守る会（敦賀市）	12
⑩ 敦賀湾磯焼け防止会（敦賀市）	13
⑪ 魚達の住みよい川・湖づくりの会（若狭町）	14
⑫ 世久見海士組合（若狭町）	15
⑬ 小浜市海のゆりかごを育む会（小浜市）	16
⑭ 南川ラインレスキュー隊（小浜市）	17
⑮ おおい町大島地区の海を守る会（おおい町）	18
⑯ 若狭高浜ブループロジェクト（高浜町）	19
IV. 令和5年度活動事例報告	20
① 安島マリンプロジェクト（坂井市）	20
② 崎生態系保全活動グループ（坂井市）	24
③ 梶生態系保全活動グループ（坂井市）	31
④ 米ヶ脇里海を守る会（坂井市）	37
⑤ 浜地里海を育てる会（坂井市）	41
⑥ 三国沖の海を見守る会（坂井市）	45
⑦ 勝山九頭竜川環境ネットワーク（勝山市）	46
⑧ 日野川環境整備協議会（越前市）	49
⑨ 敦賀河川を守る会（敦賀市）	55
⑩ 敦賀湾磯焼け防止会（敦賀市）	63
⑪ 魚達の住みよい川・湖づくりの会（若狭町）	68
⑫ 世久見海士組合（若狭町）	71
⑬ 小浜市海のゆりかごを育む会（小浜市）	74
⑭ 南川ラインレスキュー隊（小浜市）	79
⑮ おおい町大島地区の海を守る会（おおい町）	82
⑯ 若狭高浜ブループロジェクト（高浜町）	87

I. はじめに

平成 13 年に制定された水産基本法第 32 条において、漁村の有する水産業及び水産物の供給の機能以外の多面にわたる機能が、将来にわたって適切かつ十分に発揮されるようにするために、必要な施策を講じると明記され、水産のもつ多面的機能について、初めて言及されました。また、平成 30 年に改訂された漁業法においても水産の有する多面的機能について、初めて記載されました。

水産多面的機能発揮対策は、水産業及び漁村の持つ多面的機能を将来にわたって適切かつ十分に発揮されるようにするため、漁業者や地域住民が行う効果的・効率的な多面的機能の発揮に資する活動を国、県および地元市町が一体的に支援する施策です。

福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会は、福井県内で水産多面的機能発揮対策に取り組む活動組織に対して必要な資金を交付するほか、活動組織に対する指導を行うなど、水産多面的機能発揮対策を円滑に推進するための活動に取り組んでいます。

この報告書では、令和 5 年度に活動に取り組んだ県内 8 市町の 16 活動組織による取組内容について報告します。

令和 6 年 3 月 5 日

Ⅱ．福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会の活動

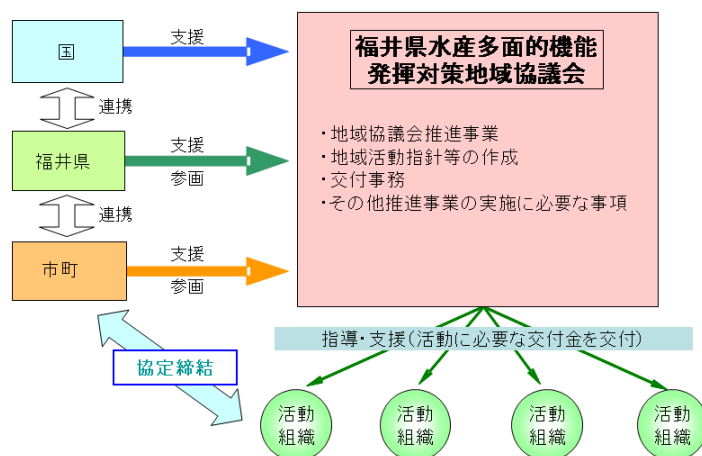
（１）福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会の役割

福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会（以下、地域協議会）は、水産庁の交付金事業である「水産多面的機能発揮対策」を円滑に推進するため、福井県内で水産多面的機能発揮対策の活動に取り組む活動組織に対して必要な資金を交付するほか、活動組織に対して指導を行い、効果的な事業の実施に努めています。

福井県内では、令和５年度は、

16 の活動組織で漁業者と地域住民等が一体となって活動を進めています。

地域協議会では、事業を実施するにあたって、水産試験場等の専門機関による助言、指導が得られる体制を整備し、漁業者と地域住民等が一体なった保全活動を推進し、地域コミュニティの維持・発展による漁村地域の活性化が図られるようにしています



（２）事業経過報告

年月日	内 容
令和５年５月１日	福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会 第１回臨時総会
令和５年６月２日	福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会 第２１回通常総会
令和５年９月１２日	福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会 第２回臨時総会
令和５年１１月２日	福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会 第３回臨時総会
令和６年１月３０日	福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会 第４回臨時総会
令和６年３月２２日	福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会 第２２回通常総会

(R5. 4. 1～R6. 3. 31)

Ⅲ. 福井県内の活動組織

(1) 県内の活動組織一覧（概要）

福井県内では、令和5年度に16の活動組織が保全活動に取り組んでいます。

- ① 安島マリプロジェクト（坂井市）
- ② 崎生態系保全活動グループ（坂井市）
- ③ 梶生態系保全活動グループ（坂井市）
- ④ 米ヶ脇里海を守る会（坂井市）
- ⑤ 浜地里海を育てる会（坂井市）
- ⑥ 三国沖の海を見守る会（坂井市）
- ⑦ 勝山九頭竜川環境ネットワーク（勝山市）
- ⑧ 日野川環境整備協議会（越前市）
- ⑨ 敦賀河川を守る会（敦賀市）
- ⑩ 敦賀湾磯焼け防止会（敦賀市）
- ⑪ 魚達の住みよい川・湖づくりの会（若狭町）
- ⑫ 世久見海士組合（若狭町）
- ⑬ 小浜市海のゆりかごを育む会（小浜市）
- ⑭ 南川ラインレスキュー隊（小浜市）
- ⑮ おおい町大島地区の海を守る会（おおい町）
- ⑯ 若狭高浜ブループロジェクト（高浜町）

令和5年度 水産多面的機能発揮対策活動実施状況（概要）



（２）各活動組織の紹介

① 安島マリンプロジェクト（坂井市）

活動組織名

安島マリンプロジェクト

代表者名

下影 務

発足年月日

平成 22 年 4 月 9 日（環境生態系） 平成 25 年 7 月 29 日（水産多面的）

構成員

漁業者：40 名 漁業者以外：安島区民 160 名

対象資源

藻場

活動項目

食害生物の除去

岩盤清掃

流域における植林・下草刈り

浮遊・堆積物の除去

その他特認活動（岩おこし）

モニタリング

教育・学習に資する取組

漁業者等が行う砂浜、海底、沖等の廃棄物等処理

対象資源の位置



② 崎生態系保全活動グループ(坂井市)

活動組織名

崎生態系保全活動グループ

代表者

山野 善信

発足年月日

平成 22 年 3 月 5 日（環境生態系） 平成 25 年 7 月 29 日（水産多面的）

構成員

漁業者：18 名

漁業者以外：228 名（崎区自治会、婦人会、崎青壮年男、崎区小学校 P T A、崎区中学校 P T A、松島水族館）

対象資源

藻場

活動項目

食害生物の除去

岩盤清掃

流域における植林

浮遊・堆積物の除去

その他特認活動（岩おこし）

モニタリング

教育・学習に資する取組

漁業者等が行う砂浜、海底、沖等の廃棄物等処理

海難救助避難訓練

対象資源の位置



③ 梶生態系保全活動グループ （坂井市）

活動組織名

梶生態系保全活動グループ

代表者名

出嶋 昇

発足年月日

平成 22 年 2 月 27 日（環境生態系） 平成 25 年 7 月 29 日（水産多面的）

構成員

漁業者：11 名

漁業者以外：139 名（梶区民（92 戸）、梶婦人会、梶子供会、貴船会、松寿会、観光業者）

対象資源

藻場

活動項目

食害生物の除去

岩盤清掃

流域における植林・下草刈り

浮遊・堆積物の除去

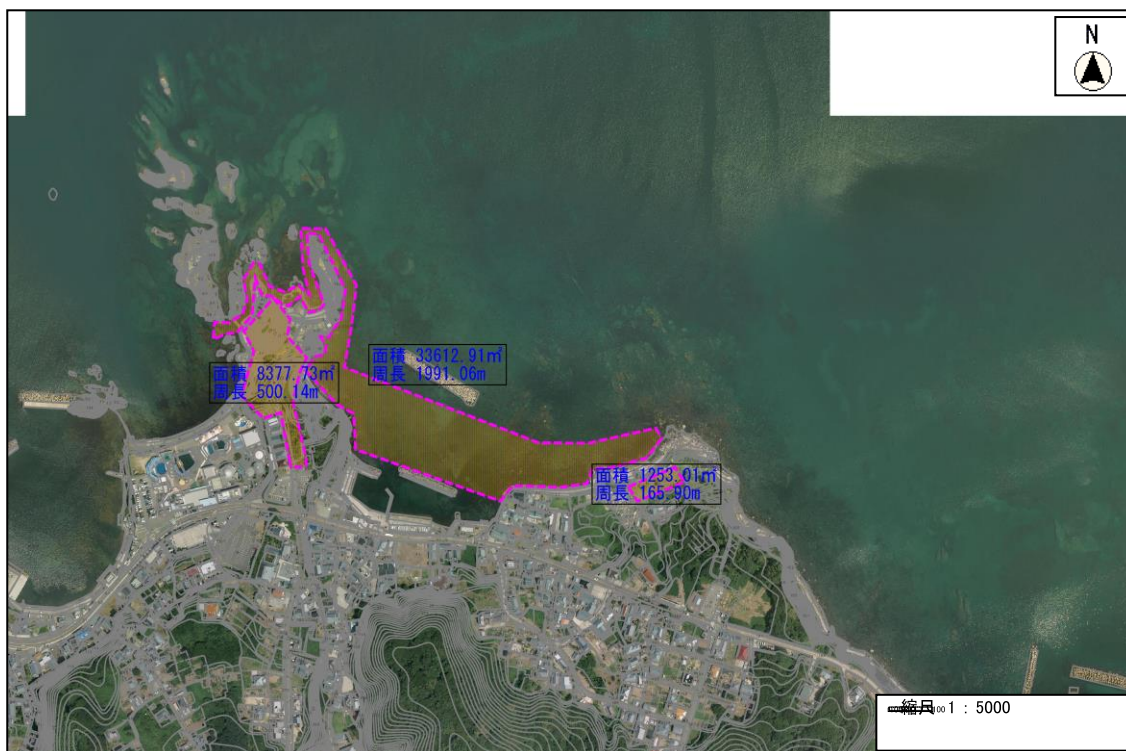
その他特認活動（岩おこし）

モニタリング

教育・学習に資する取組

漁業者等が行う砂浜、海底、沖等の廃棄物等処理

対象資源の位置



④ 米ヶ脇里海を守る会 （坂井市）

活動組織名

米ヶ脇里海を守る会

代表者名

倉谷 政行

発足年月日

平成 22 年 3 月 7 日（環境生態系） 平成 25 年 7 月 29 日（水産多面的）

構成員

漁業者：26 人

漁業者以外：242 名（漁友会、米ヶ脇自治会、嶺北消防組合坂井消防団 20 分団）

対象資源

藻場

活動項目

食害生物の除去

岩盤清掃

流域における植林・下草刈り

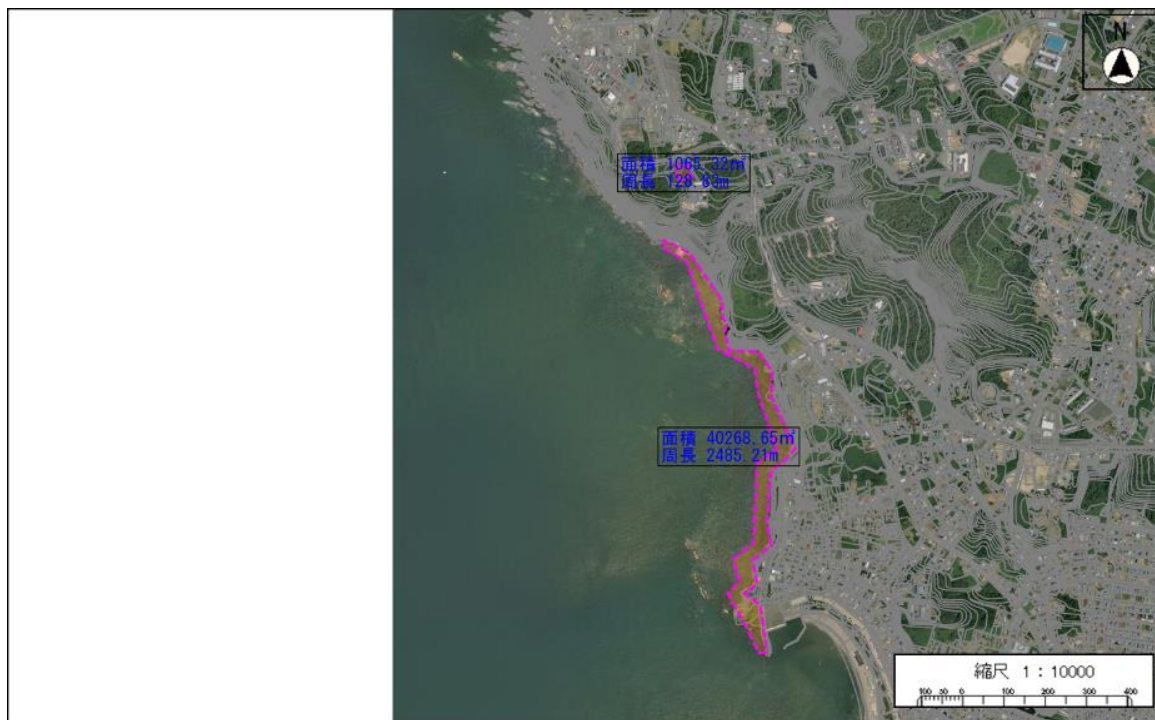
浮遊・堆積物の除去

その他の特認活動（岩おこし）

モニタリング

漁業者等が行う砂浜、海底、沖等の廃棄物等の処理

対象資源の位置



⑤ 浜地里海を育てる会（坂井市）

活動組織名

浜地里海を育てる会

代表者名

内川 保

発足年月日

平成 25 年 7 月 29 日

構成員

漁業者：13 名

漁業者以外：157 名（浜地自治会 56 戸 浜地地引網組合 浜地海水浴場浜茶屋振興会 越前松島水族館 三国ライフセービングクラブ 日本サーフィン連盟福井県支部）

対象資源

二枚貝

活動項目

- ・ 漁業者が行う砂浜、海底、沖等の廃棄物等処理
- ・ 教育・学習に資する取組

対象資源の位置



⑥ 三国沖の海を見守る会（坂井市）

活動組織名

三国沖の海を見守る会

代表者名

山本 紀彦

発足年月日

平成 31 年 1 月 31 日

構成員

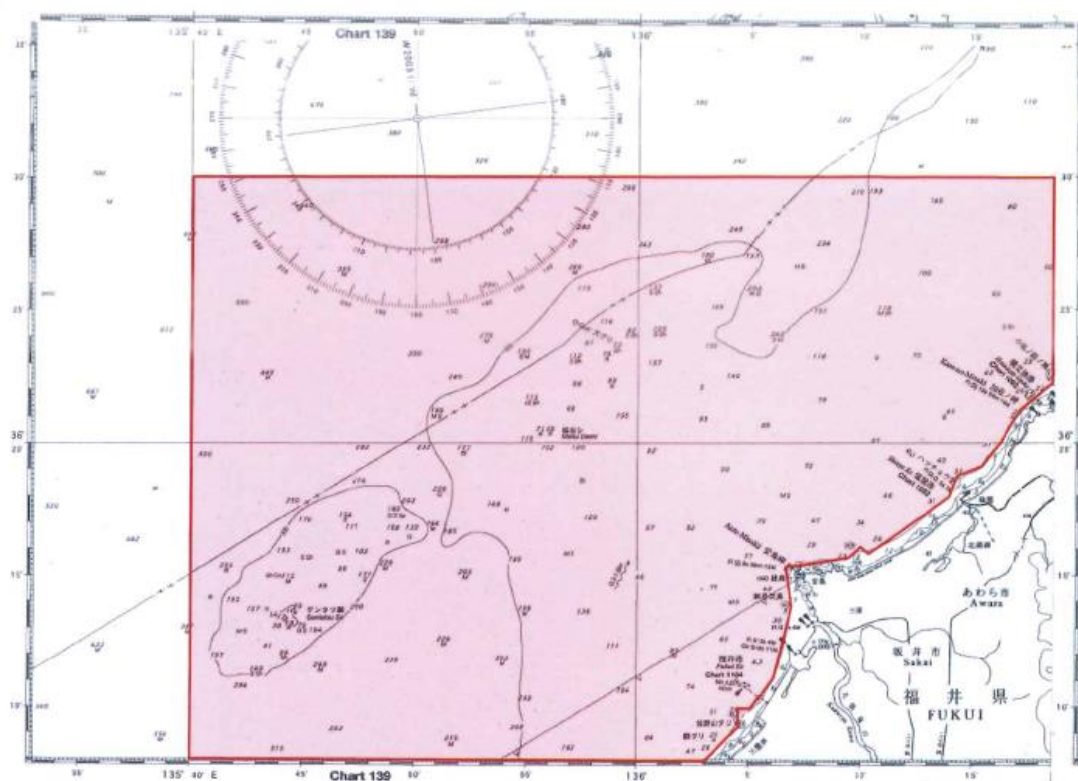
漁業者 : 20 名

漁業者以外：三国港漁業協同組合

活動項目

監視ネットワーク強化のための海上監視・情報収集

活動位置図



⑦ 勝山九頭竜川環境ネットワーク（勝山市）

活動組織名

勝山九頭竜川環境ネットワーク

代表者名

木下 清治

発足年月日

平成 25 年 7 月 15 日

構成員

漁業者：123 名

漁業者以外：50 名（荒土町ふるさとづくり推進協議会、鹿谷町まちづくり協議会、野向町まちづくり推進委員会、勝山青年会議所 他）

対象資源

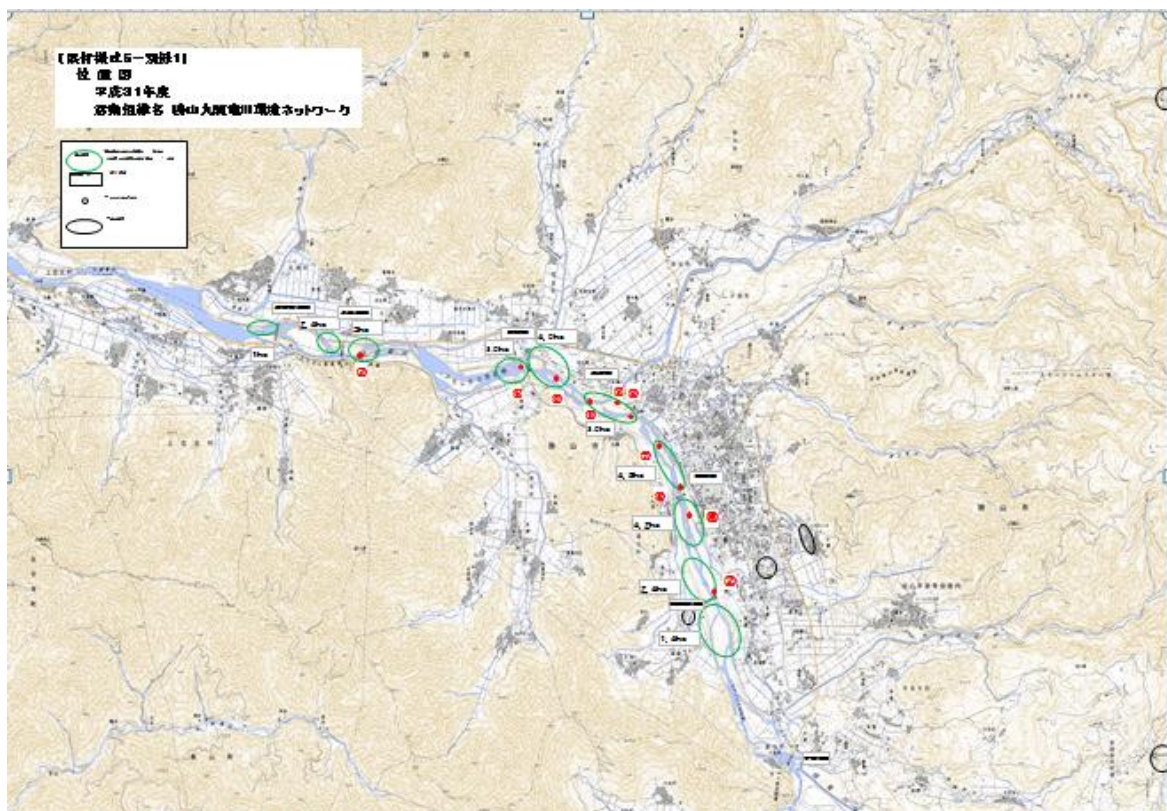
アユ等魚類

活動項目

河川清掃

教育・学習に資する取組

対象資源の位置



⑧ 日野川環境整備協議会（越前市）

活動組織名

日野川環境整備協議会

代表者名

会長 宮本 俊

発足年月日

平成 25 年 7 月 26 日

構成員

漁業者：119 名

漁業者以外：242 名（日野川用水土地改良区、松ヶ鼻土地改良区、日野川流域住民、地域住民（南越前町）、地域住民（越前市）、地域住民（鯖江市）日野川漁業協同組合事務局）

対象資源

アユ等魚類

活動項目

河川の清掃活動

対象資源の位置



活動組織名

代表者名

発足年月日

構成員

漁業者以外：7名（中郷小学校校長、南小学校校長、中郷地区区長会代表、中郷地区子供会指導者代表、ボーイスカウト指導者代表等）

アユ等魚類、底生生物

河川清掃

教育学習に質する取組

河床耕耘

- 12 -

⑩ 敦賀湾磯焼け防止会（敦賀市）

活動組織名

敦賀磯焼け防止会

代表者名

山本 宗治

発足年月日

令和4年12月1日

構成員

漁業者：151名

漁業者以外：8名（敦賀市漁業協同組合職員）

対象資源

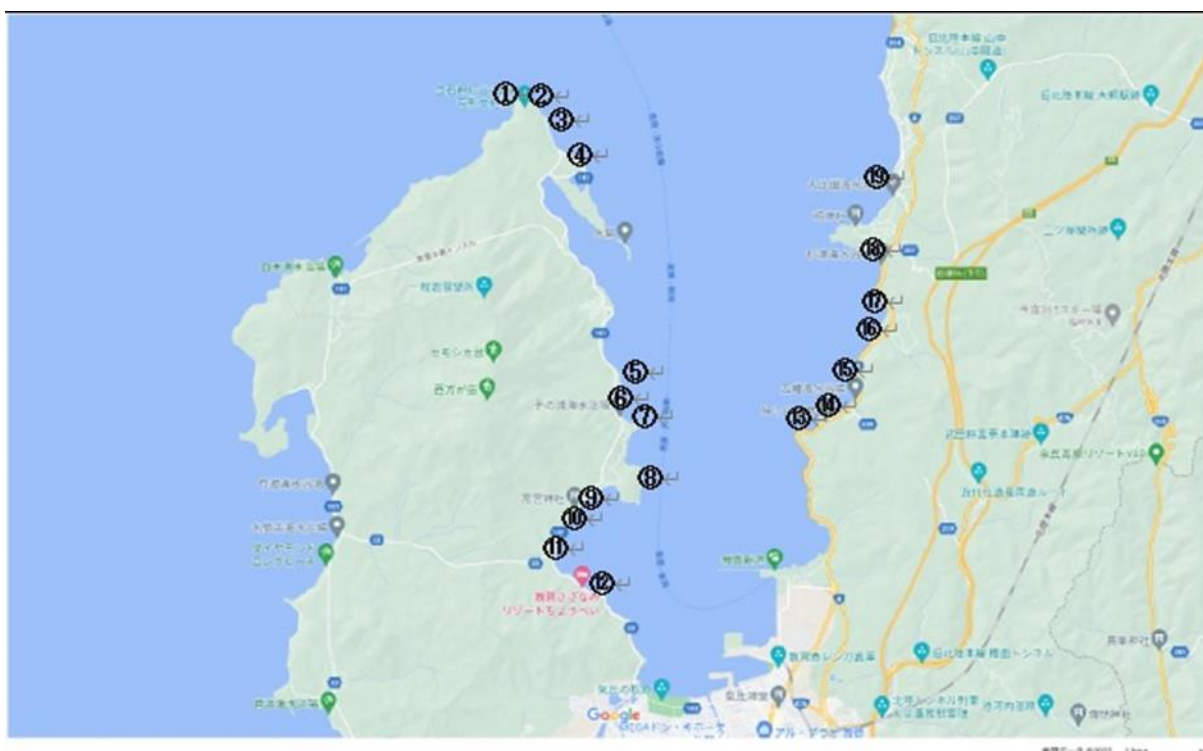
藻場

活動項目

海藻の種苗投入

食害生物除去

対象資源の位置



食害生物の除去 12カ所（①～⑤、⑦～⑪、⑬、⑭）

海藻の種苗投入 11カ所（③、⑥、⑧、⑨、⑪～⑭、⑯、⑱、⑲）

⑪ 魚達の住みよい川・湖づくりの会（若狭町）

活動組織名

魚達の住みよい川・湖づくりの会

代表者名

田辺 喜代春

発足年月日

平成 25 年 7 月 30 日

構成員

漁業者：27 名

漁業者以外：29 名（みどり会、NPO 法人三方五湖を育む会、地域住民）

対象資源

アユ等魚類

活動項目

湖岸漂着物の除去

湖上・湖周辺清掃

対象資源の位置



⑫ 世久見海士組合（若狭町）

活動組織名

世久見海士組合

代表者名

藤原 雅司

発足年月日

令和5年3月1日

構成員

漁業者：20名

漁業者以外：1名（若狭三方漁業協同組合職員）

対象資源

藻場

活動項目

藻場の保全（食害生物の除去（ウニ類）、母藻の設置、海藻魚礁の設置）

漂流・漂着物処理

対象資源の位置



図1 活動範囲①

海洋汚染等の原因となる

漂流、漂着物、堆積物処理 1.0ha



図2 活動範囲②

藻場の保全 4.0ha

■:活動区域

200m×50m 1.0ha 4か所

✕:モニタリング定点 5か所

⑬ 小浜市海のゆりかごを育む会（小浜市）

活動組織名

小浜市海のゆりかごを育む会

代表者名

山下 雅司

発足年月日

平成 29 年 3 月 1 日

構成員

漁業者：274 名

漁業者以外：127 名（小浜市漁協、一般社団法人うみから、若狭高校海洋科学科、福井県立大学海洋生物資源学部、小浜市海のまちづくり未来会議、うまし漁村の会、れいなん森林組合）

対象資源

藻場

活動項目

母藻の設置、海藻の種苗投入、アマモの移植および潘種、ウニの密度管理

砂浜、海底、沖等の廃棄物等処理、教育学習に資する取組

対象資源の位置



① 田島	② 矢代	③ 志横	④ 大熊	⑤ 阿納	⑥ 西小川
⑦ 加尾	⑧ 宇久	⑨ 甲ヶ崎	⑩ 若狭	⑪ 仏谷	⑫ 堅海
⑬ 泊	⑭ 西津	⑮ 加斗			

⑭ 南川ラインレスキュー隊（小浜市）

活動組織名

南川ラインレスキュー隊

代表者名

辻井 裕二

発足年月日

平成 29 年 2 月 7 日

構成員

漁業者：15 名

漁業者以外：85 名（今富まちづくり協議会、今富エース会、ILOVE 今富サポーターズ、坂本農防団、森んこ、星のフィエスタ実行委員会、若狭小浜ドローン協会）

対象資源

魚類

活動項目

草刈り、清掃活動、ヨシ帯の刈り取り・間引き、浮遊・堆積物の除去

教育・学習に資する取組

対象資源の位置



⑮ おおい町大島地区の海を守る会（おおい町）

活動組織名

おおい町大島地区の海を守る会

代表者

小西 昌弘

発足年月日

令和4年2月25日

構成員

漁業者：60名

漁業者以外:12名(大島漁業協同組合)

対象資源

藻場

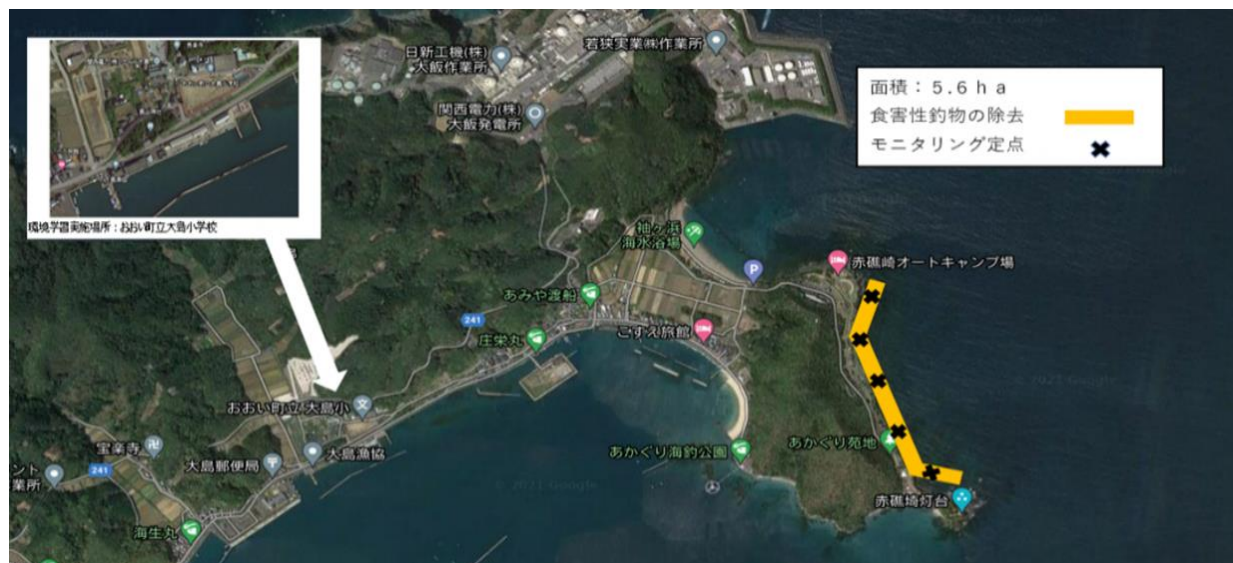
活動項目

食害生物の除去（ウニ類）

母藻の設置

モニタリング

対象資源の位置



⑩ 若狭高浜ブループロジェクト（高浜町）

活動組織名

若狭高浜ブループロジェクト

代表者

大黒 芳信

発足年月日

令和2年2月10日

構成員

漁業者：161名

漁業者以外：4名（若狭高浜漁業協同組合）

対象資源

藻場

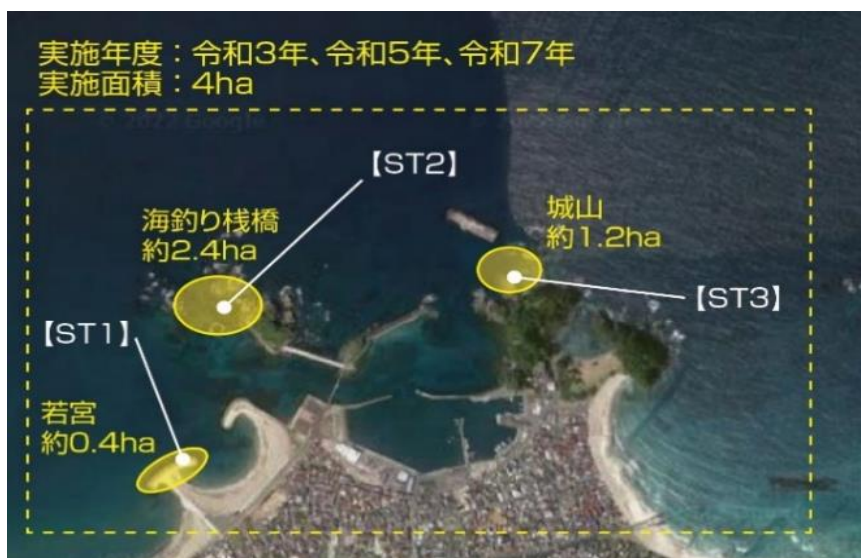
活動項目

食害生物の除去（ウニ類）

母藻の設置

モニタリング

対象資源の位置



Ⅳ 令和 5 年度活動事例報告

① 安島マリンプロジェクト（坂井市）

活動組織名：安島マリンプロジェクト

1. 地域の概要

坂井市三国地区は、福井県の北に位置し、人口約 20,000 人の都市である。安島マリンプロジェクトがある安島地区は人口約 850 人で、地域の主要な産業は漁業である。

地区には景勝地として有名な東尋坊があり、毎年多くの観光客が訪れている。

平成 9 年 1 月 7 日、ロシアタンカー船ナホトカ号の船首部分が座礁接岸した地区でもある。

2. 漁業の概要

安島マリンプロジェクトの主な構成員は、地元安島区民と雄島漁業協同組合安島支所に所属している漁業者である。雄島漁業協同組合安島支所の主要な漁業は浅海漁業であり、主な漁獲対象魚種は、越前ウニ、ワカメ、サザエ、アワビ、アマダイ、アジ、ヒラメ等が主である。

近年、漁師も海女も高年齢化が進み、後継者不足が専らの問題である。しかしまだ少人数だが数年前から新人海女たちが積極的に活躍をし始めたことで、幅広い年代の交流をすることによりこれまでの変わらない活動を継続することや新しい目線からの発想などで、この先継続して豊かな海を守っていくことを期待している。

3. 活動組織の運営

（1）活動組織の発足年月日

平成 25 年 7 月 29 日発足

（活動としては平成 22 年 4 月 9 日発足の環境生態系保全事業から継続して 11 年目となる）

（2）構成員の数と形態

構成員 200 名（内訳 漁業者 40 名、安島区民 160 名）

（3）活動延べ人数

約 360 人

（4）対象地域での活動歴

当地区は東尋坊や雄島のある観光地でもあるため、区民総出の海岸清掃を年 2 回（春・秋）30 年以上前から実施している。また、環境生態系保全活動として平成 22 年度から区が主体となって活動を始め、平成 25 年度から水産多面的機能対策支援事業に活動を切替えて継続して実施している。

4. 活動の対象範囲と対象資源の現状・課題

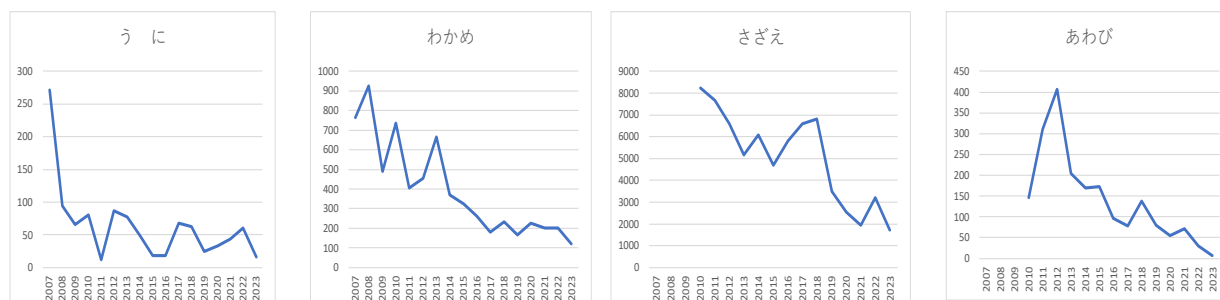
●活動場所



●資源の課題

昨年に引き続き温暖化の影響か今年も例年に比べ水温が高く、磯焼け現象が起き、岩のりの生育が悪く不作であった。それが原因か海藻の生え方もよくないため、エサ不足でウニやサザエ、アワビなどの収穫量が激減した。

これまでの収穫高（収穫量kg）は次のとおり。

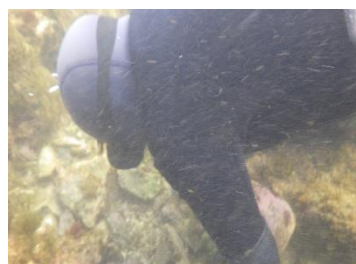


5. 活動の実施状況

実施年月日	活動内容	参加人数
R5. 4. 28	あか藻刈り作業	14
R5. 5. 31	小学生わかめ干し体験	27
R5. 6. 20	流域における下草刈り作業	38
R5. 7. 31	岩おこし作業	14
R5. 9. 16	海岸清掃作業	158
R5. 10. 13	流域における下草刈り作業	27
R5. 10. 26	岩おこし作業	11
R5. 10. 31	ヒトデ駆除作業	24
R5. 11. 1	ヒトデ駆除作業	24
R5. 11. 2	岩盤清掃	14
R5. 12. 14	モニタリング作業	2
R5. 12. 15	モニタリング作業	2
R5. 12. 16	モニタリング作業	2



ヒトデ駆除の様子



海中の石を手作業で返す様子

6. 今後の課題や計画

漁業者の人数の減少傾向が続き、海中作業ができる人が減ったため、作業が思うほどはかどらずに時間がかかり負担となる。

これから先も一気に人が増えるとは考えにくいので、作業の場所や範囲を細かく指定して回数を増やすなどして負担軽減できるような対策を取っていけるように心掛けたい。



流域における下草刈り作業の様子



わかめ干し体験をする子供たち



海岸清掃の様子



あか藻刈り作業の様子

② 崎生態系保全活動グループ（坂井市）

活動組織名：崎生態系保全活動グループ

1. 漁業の概要

崎生態系保全活動グループの主な構成員は、雄島漁業協同組合に所属しており、主要な漁業は海女による浅海漁業が中心であり、主な漁獲対象魚種は、ウニ、サザエ、アワビ、ワカメ、岩のり、天草等で年間を通じて藻場の恩恵を受けています。ウニは高級珍味の「塩うに」となり、ワカメは「もみわかめ」として、名産品として販売されています。

2. 活動組織の運営

（1）環境・生態系保全対策活動組織の発足年月日

平成 22 年 3 月 5 日 設立総会

（2）水産多面的機能発揮対策活動組織の発足年月日

平成 25 年 7 月 29 日 事業内容説明会

（3）構成員の数と形態

構成員：全 246 名

（内訳 漁業者：18 名、自治会：220 名、松島水族館：8 名）

（4）活動延べ人数

○平成 23 年度 704 人

○平成 24 年度 645 人

○平成 25 年度 412 人

○平成 26 年度 582 人

○平成 27 年度 574 人

○平成 28 年度 521 人

○平成 29 年度 543 人

○平成 30 年度 541 人

○平成 31 年度 499 人

○令和 2 年度 369 人

○令和 3 年度 347 人

○令和 4 年度 351 人

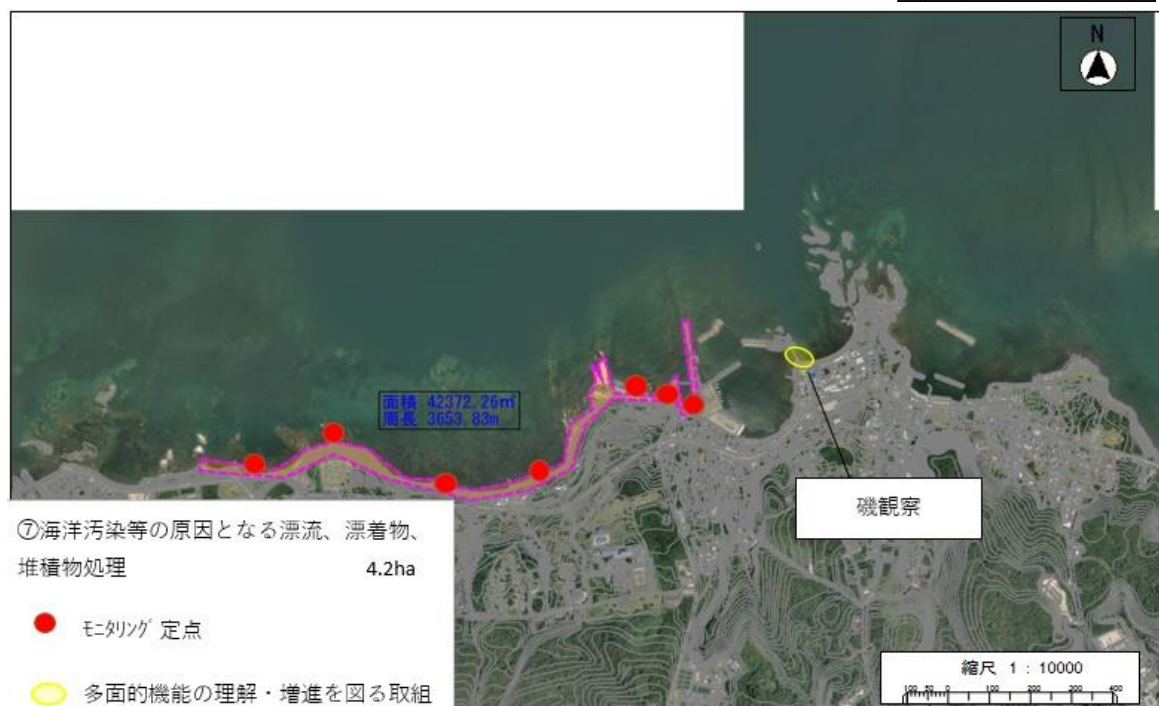
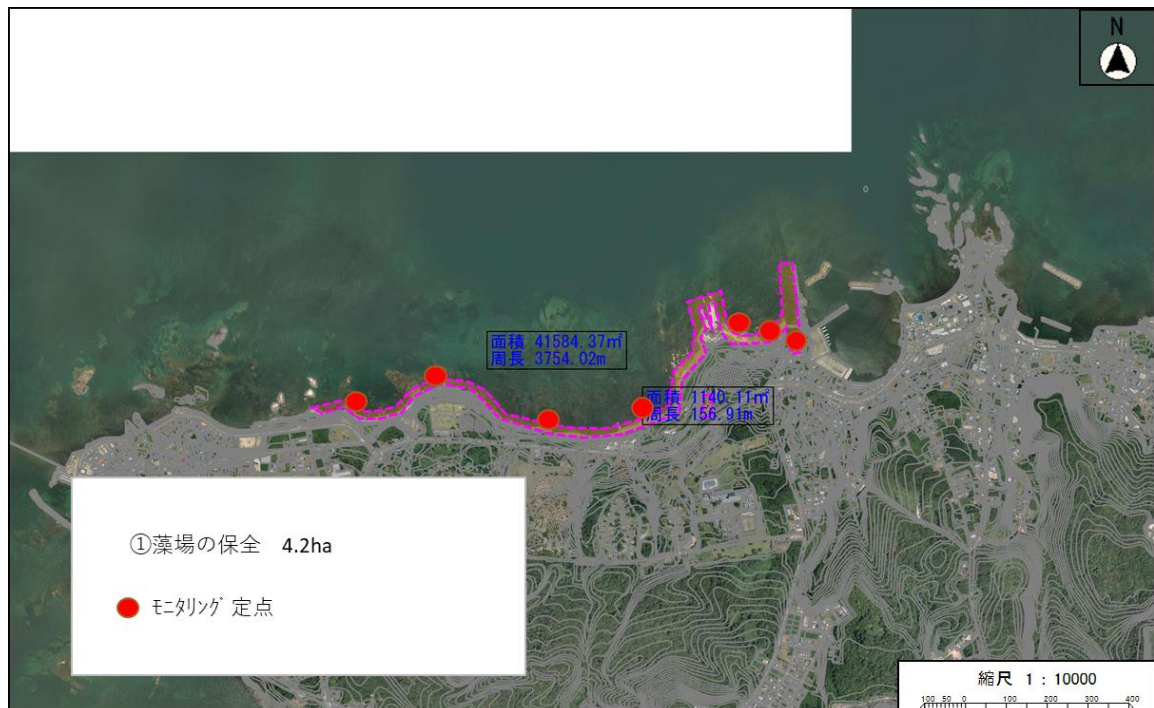
○令和 5 年度 306 人

（5）対象地域での保全活動歴

崎地区では、平成 22 年度から「崎生態系保全活動グループ」が主体となって、保全活動の計画づくり、モニタリング、及び藻場の岩盤清掃、浮遊・堆積物の除去、流域の植林活動等を実施してきた。

3. 保全活動の対象範囲と対象資源の現状・課題

活動位置 (崎地先藻場、面積：4.2ha)



4. 保全活動の実施状況及び効果

(1) 本年度の活動実施状況

実施日	活動区分	活動内容	参加者数	備考
R5. 4. 1～ R5. 4. 30	年次総会	活動内容の報告決定	14 名	1 回実施
R5. 7. 17	海難救助訓練	海上漂流者を船を出して救出	19 名	1 回開催
R5. 4. 1～ R6. 2. 15	モニタリング	状況の確認 (コドラート法)	4 名	4 回実施
R5. 4. 1～ R6. 2. 15	保全活動	有害生物の除去	33 名	4 回実施
R5. 4. 1～ R6. 2. 15	保全活動	海底耕うん、岩おこし	12 名	2 回実施
R5. 10. 19	保全活動	岩盤清掃 (のり畑清掃)	10 名	1 回実施
R5. 4. 1～ R6. 2. 15	海洋汚染等の 原因となる 漂流、漂着物、 堆積物処理	漁業者等が行う砂浜、海底、沖等の廃棄物等処理 (海岸・渚帯の清掃)	97 名	3 回実施
R5. 7. 7	保全活動	教育と啓発の機会の提供 (磯観察)	40 名	1 回実施
R5. 4. 1～ R6. 2. 15	保全活動	流域の植林 (流域の下草刈り)	77 名	2 回実施

延活動人員 306 名

(2) 活動内容写真

「教育と学習の機会 磯観察会」

(越前松島水族館様のご協力)

(活動中の小学生)



「モニタリング」

(海藻等の定点モニタリング)



(海藻等の定点モニタリング)



「有害生物の除去」



「海底耕うん・岩おこし」

(活動中)



(活動中)



「岩盤清掃」のり畑清掃
(のり畑清掃中)



(のり畑清掃中)



「漁業者等が行う砂浜、海底、沖等の廃棄物等処理」海岸清掃・ごみ拾い
(清掃前の状況)



(清掃活動中)



(清掃活動中)



(清掃活動中)



(活動参加者)



「海難救助訓練」海上漂流者の救助
(カヌー漂流者を想定)



(海上救助活動中)



「流域の植林」下草刈り
(下草刈り活動中)



(活動中)



(3) 広報活動

「水産多面的機能発揮対策」において、海の現状、藻場の大切さ、海の環境等を知ってもらうため、各活動前では回覧版等による広報活動を行い、地区住民には小学生以上の全員参加を呼びかけた交流活動で情報発信をすることが出来た。

(4) 活動内容の特色

雄島小学校の皆様にも協力していただき、松島水族館前の海岸で「磯観察」活動を毎年実施しておりましたがコロナ禍で中断していました。、しかし昨年来、再開することができ大変嬉しく思っている。

(5) 効果

「水産多面的機能発揮対策」活動により、藻場の環境は活動前と比較すると随分と向上し、ウニ、サザエ等が育成しやすい環境となってきた（但し、上記生物の生育は、海中の水温に影響されやすい傾向にあります。）。

効果については、浅海漁業の漁獲量で増加した物もあれば、減少した物もありが、若干増加の傾向にあり、活動効果が出ているものと思われる。

5. 今後の課題や計画

地域住民の共有財産である藻場は、今後も環境保全の維持管理に努め、「水産多面的機能発揮対策」活動を継続して行い、交流の場を広めていき、「教育と啓発の機会の提供」活動も継続して実施していく。

③ 梶生態系保全活動グループ （坂井市）

活動組織名：梶生態系活動グループ

1. 地域の概要

坂井市三国地区は、福井県の北に位置し、人口約2万人の町である。当グループがある地区は、東は浜地地区との境界である今津川付近から、西は崎地区との境界である越前松島水族館付近までが活動場所である。当地区は幹線道路から海岸線へ延びる道路が狭い場所や、海岸と道路の間が険しい崖となっている場所が多い。また、同地区には諸外国から海防のため築いた砲台である国指定史跡の丸岡藩砲台跡、火山活動で形成され、隆起と海食で現れた国指定名勝天然記念物の越前松島海岸のある場所に位置する。

2. 漁業の概要

梶生態系保全活動グループの主な構成員は、雄島漁業協同組合に所属している梶支所の組合員を中心に梶区住民全員である。組合員の主要な漁業は魚の一本釣りで、主な漁獲対象魚類はタイ・ハマチ・アジ・ヒラメ等である。海女は素潜りで主な漁獲対象物は、ワカメ・ウニ・サザエ・アワビ・岩ノリ等がある。

組合員は40歳代の海女から80歳代の漁師がいるが、組合員の7割近くは70歳を超える会員であり、高齢化からくる組合員の減少も著しい。現構成員で藻場の保全活動を継続しながら、当地区から新規就業者や若手組合員を排出する体制づくりを求めている。

3. 活動組織の運営

（1）活動組織の発足年月日

平成22年2月27日 活動14年目

（2）構成員の数と形態

構成員 約150名

（内訳 漁業者11名、梶区各種団体、梶区民）

（3）活動延べ人数

平成23年度	623人	平成24年度	489人	平成25年度	422人
平成26年度	494人	平成27年度	607人	平成28年度	611人
平成29年度	466人	平成30年度	422人	平成31年度	502人
令和2年度	420人	令和3年度	393人	令和4年度	398人
令和5年度	283人				

昨年度は下草刈・海岸清掃・海中清掃などの活動を行った。

海洋汚染等の原因となる漂流・漂着物・堆積物の処理活動では活動地域が落石・倒木等で危険な状態であること、漂流・漂着物の搬送する道路（遊歩道）もかなり危険な状況となっていることから事故には十分注意を払いながら活動を行った。啓蒙活動である子供会への体験学習は子供の急激な減少により植林のみの活動となった。

(4) 対象地域での保全活動歴

梶地区では、平成 22 年度から区民総出の漂着ゴミの回収を中心とした海岸清掃・流域海岸の下草刈り、漁業組合員主体の特認作業の岩起こしや有害生物の除去などの海中清掃、海苔畑の岩盤清掃を実施している。

海を知らない地元子供に対し海と漁村への親近感を感じてもらうため、毎年行う釣り体験や魚料理体験を今回は子供の参加数減少により実施せず、今後の啓蒙活動を継続的に行うことが危惧される。

4. 保全活動の対象範囲と対象資源の現状・課題

(1) 活動場所



⑦海洋汚染等の原因となる漂流、
漂着物、堆積物処理 2.2ha

①藻場の保全 4.2ha

(2) 対象資源の現状

当地区海岸は大規模な磯焼けなどは発生しておらず、海女による素潜りでの漁獲量は横ばいか微増で、活動を通じ現状の藻場を維持していることは認識できるが、「岩起こし」活動が困難な区域は漂砂を起こしている海岸も少なくない。詳しい漁獲量を確認できないが一人当たりの漁獲量は微増で組合員減少による総漁獲量は長期的観測では減少しているのは確かである、また、地元のウニ、ワカメ小売店でも予約販売量を仕入れるのが精一杯とのことである。

(3) 課題：漁場の整備と育成

漁業協同組合員の高齢化に伴う会員の減少は漁業壊滅につながる恐れがあり、次世代の若者は漁業への魅力が少なく関心が薄いのも事実である、当活動の漁場育成による良漁場の回復で水産資源の確保と、啓蒙活動や体験教室など次世代の担い手の育成を行うことが必須である。

令和 5 年 1 月現在会員数

年齢別組合員	30代	40代	50代	60代	70代	80代
海女	0人	1人	1人	1人	2人	0人
漁師	0人	0人	0人	0人	5人	1人

現在、海女 5 名、漁師 6 名の会員がおり、重労働である海女活動や漁師活動において高齢を理由に組合を脱退する者や、持病により軽作業は行うが今まで通りの漁業を行う事のできない会員などもある、伝馬船を所有している者に組合員加入の勧誘を行うが、漁業事態が趣味の範囲

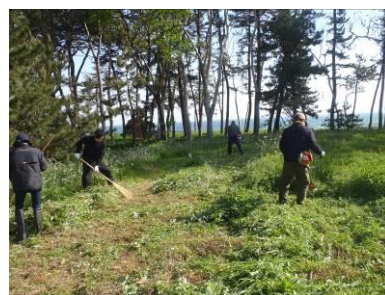
程度であり組合員加入を拒否している。魅力ある組合作りが必要である。

5. 昨年度の実施状況及び効果のまとめ

海岸清掃活動：漂着物の回収を中心とした海岸清掃



流域における植林及び下草刈：海岸の下草刈



海中清掃活動：漁場育成



岩盤清掃活動・海苔畑清掃：岩海苔の漁場育成



教育・学習活動：植林活動



植林体験・釣体験・料理体験などは子供の行事・習い事等と重なり価値観の多様化と子供の減少は当該活動を優先させることはないものの、小学校で体験できるものではなく、実施に積極的な父兄が多い。また、植林学習終了後、子供にアンケートを実施したところ「植林の必要性の理解」などの意見が多くあった。

子供への体験学習は地区単位ではなく、地域単位、学校単位での実施も検討するべきかもしれない。

6. 今年度の課題

当グループは県の水産多目的機能発揮対策事業の一環として、役員で活動計画を立案し地域住民の理解を増進し課題点を明確にして活動を行ってきた。

活動における区民の認知度は高く積極的参加は確実にあるが、区民の高齢化および組合員減少で活動参加人員は確実に減少しており、長時間活動でカバーするも温暖化による事故などの懸念もあり現行以上の活動は慎重になる。

長期的観測で海産物の減少は明確であり、当グループの漁場育成の抜本的な改善は限界を感じているが現活動は藻場の保全に対し多少貢献できていることは専門家とのヒアリングで確認できている。

今後も継続的な活動を行っていききたいが下記の様々な課題がある。

- (1) 区民の高齢化および組合員減少で活動参加人員の減少。
- (2) 気候変動（温暖化など）による長時間活動の制限。
- (3) 子供の減少による啓蒙活動（体験学習など）の地区単位の活動。

7. 保全活動の実施状況及び効果

(1) 今年度の活動実施状況

実施日	活動区分	活動内容	参加者	備考
R5. 4. 6	藻場の保全	浮遊物・堆積物の処理	7 名	組合員
R5. 4. 22	藻場の保全	植林・植林場所の整理	11 名	子供会父兄・ 梶区役員
R5. 4. 23	藻場の保全	植林	12 名	子供会父兄・ 梶区役員
R5. 4. 28	藻場の保全	浮遊物・堆積物の処理	9 名	組合員

R5. 4. 29	藻場の保全	浮遊物・堆積物の処理	9 名	組員
R5. 5. 28	漂流・漂着物の処理	水域の保全	47 名	構成員
R5. 6. 4	藻場の保全	海岸の下草刈	8 名	梶区役員
R5. 7. 2	藻場の保全	モニタリング	2 名	組員
R5. 7. 16	藻場の保全	海岸の下草刈	64 名	構成員
R5. 9. 11	藻場の保全	岩起こし（特認作業）	8 名	組員
R5. 9. 12	藻場の保全	岩起こし（特認作業）	8 名	組員
R5. 9. 16	漂流・漂着物の処理	水域の保全	8 名	組員・梶区 役員
R5. 9. 17	漂流・漂着物の処理	水域の保全	56 名	構成員
R5. 10. 25	藻場の保全	海苔畑清掃	9 名	組員
R5. 10. 29	漂流・漂着物の処理	水域の保全	25 名	組員

（２）活動の内容、効果等

水域の保全（海岸清掃） 海苔畑の清掃（岩盤清掃） 藻場の保全（岩起こし）



海岸清掃・岩盤清掃・海中清掃により、良好な漁場を確保し、ウニ・海苔・わかめ・さざえ・あわび等の成育を良好にする。

（３）モニタリングの様子



前回実施場所でホンダワラ刈を行った海岸３ヶ所、行っていない海岸３ヶ所を対象に水深約１ｍ～２ｍに同じ面積中に海産物等の生息状況や海藻の生息状況のモニタリングを行った。前回同様ホンダワラが大量発生しなかったことと積極的に間引きをしたことで生育状況は前回より良かった。ホンダワラの間引きの効果は生育状況を左右することが確認している。

海女さんへの聞き取り。

○わかめの漁獲に対する活動の効果について

漁獲量は前回と微増であり活動効果は専門家の判断でも多少影響があると判断せれており、

今後も活動を続けて効果を見てはどうかとのこと。

○ウニの漁獲に対する活動の効果について。

漁獲量は前回と同じくらいであるが、長期的観測では減少傾向で活動効果の影響は分らないが、多少はあるだろうとのこと。

○岩海苔の漁獲に対する活動の効果について。

需要も少なく積極的な漁獲に取り組む海女は少ないが、贈り物や昔からの海の味として好む人も少なくない、漁獲量は少ないが継続的に保全活動を行う。

8. 今後の課題や計画

今後の課題について

- (1) 水産資源の減少と漁業組合員の減少、区民の高齢化、担い手不足
- (2) 継続的活動による良漁場の確保。
- (3) 今後の計画について

○現状行っている海岸清掃・沿岸清掃・海中清掃等は漁場育成に多少影響しており、活動は積極的に行っていきたい。また、専門家とのヒアリングを代表者、事務局だけでなく組合員全員と行えば今後の効果が出てくると思われる。

○子供の頃から当グループの活動に参加していた地元学生が県立大学海洋生物資源学部に進学したことを聞いて、当グループの活動が多少影響したのかと感じた。

④ 米ヶ脇里海を守る会

活動組織名 米ヶ脇里海を守る会

1. 地域の概要

坂井市三国町は、福井県の北部海岸沿いに位置し、人口が約2万2千人の町である。米ヶ脇里海を守る会がある米ヶ脇地区には世帯数約240世帯、700人あまりが居住している。また地区には年間100万人を超す観光客が訪れる奇勝・東尋坊があるほか、九頭竜川河口に遠浅で安全な海水浴場や、きれいな夕日の沈む海岸線でも知られている。



2. 漁業の概要

米ヶ脇里海を守る会の主な構成員は、雄島漁業協同組合米ヶ脇支所に所属している。雄島漁業協同組合米ヶ脇支所の主要な漁法は海女漁であり冬の岩のり採りに始まり初春のスガモ採り初夏のワカメ、ウニ、サザエ、アワビなどが水揚げされている。それらの海産物が地元民宿・旅館の需要を満たすほか、昔からウニ・ワカメなど三国の高級食材として珍重されている。



3. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

平成 22 年 3 月 7 日

(2) 構成員の数と形態

構成員 26 名と 240 戸（米ヶ脇自治会）

（漁業者 24 名・漁友会 2 名・米ヶ脇自治会 240 戸）

(3) 活動延べ人数

活動延べ人数 69 名（今年度実施した活動の延べ人数）

(4) 対象地域での保全活動歴

米ヶ脇地区では、平成 22 年度から米ヶ脇里海を守る会が主体となって地先藻場（里海エリア）を対象に環境・生態系保全活動を実施。

4. 保全活動の対象範囲と対象資源の現状と課題

〔活動場所：三国ヨットハーバーから東尋坊までの地先磯および海岸一体〕

〔現状〕平成 22 年度から令和 5 年度まで生態系保全事業によって実施してきたスゲ採りやヒトデ捕り・浅瀬の砂取りや岩起こし及び森作り下草刈り作業を地先全域で行ったことによりウニ・アワビ・サザエなどの貝類やワカメ・天草・岩ノリ・スガモなどの海藻類の繁殖にも徐々にではあるが以前と比べ成果を挙げてきている。

また、米ヶ脇活崎「若えびす裏」の県による砂の回収作業では、砂の堆積を、岩盤が見えるほどに激減させ、平成 26 年 4 月当初、海岸線が以前の砂場から一部岩盤がむき出し、浅瀬ではアオサが一面に繁茂している状態にまでなってきた。さらに、その海岸における

モニタリングの実施により、砂の堆積の状態や貝類・海藻類の成長具合など過去と比較でき良好に推移している状況が掴めた。

そこで、組合活動として、これらの収穫が増産されたことにより、当組合も地域住民に海の幸を分け与えたいとの思いから、ワカメ干し体験、天草を使った「ところてん作り・試食会」と活動の場を設けたところ、参加者からの反響も良好で、組合員の結束にも一役買った感があった。さらに、28年度は地元の高齢者の会 27 名との交流事業で地元の海岸で採取した貝類などの調理・試食の提供で食文化の伝承と身近な海のすばらしさを感じ取っていただく事業を展開してきた。

〔課題〕

① モニタリングの継続

米ヶ脇活崎「若えびす裏」のモニタリングでは、陸及び海中からの写真撮影や 8 箇所埋め込んだ砂堆積の計測機器により海の状況を適切にデータとして把握していく必要があるが、さらに 28 年度はモニタリング箇所を 4 箇所増やし、砂の堆積やその周りの生き物の調査を実施し、これを継続事業として行った。29 年度も活崎での 8 箇所のモニタリング点において水際から 5～6m の所（砂撤去により岩石が出てきた場所）を調べたら、トコブシ・ガンボ・黒ウニ・バフンウニ・ヒトデを写真に撮ることができた。天草も 8 点の内前回は 3 箇所ぐらいしかなかったが、今回は 7 箇所で見られ 5 年間のモニタリングで砂撤去により回復したことがわかり、これからも海中のモニタリングを継続したい。

② 砂撤去作業

米ヶ脇地先「波瀬海岸」にて、砂撤去作業を人海戦術で行った。一面砂原であったが、作業努力によりあちこちで岩盤が出現するようになりそれなりの効果が認められた。

③ イベント事業の開催

○ワカメ干し体験

地区内外の参加者に好評を得ているワカメ干し体験は、昨年組合員に加入した若手の海女の 2・3 年後の上達を見極めたうえで、天候や海の条件などを考慮して、イベントの継続をして行きたい。



④ 一般事業の継続

岩起こしは、海女の体力を考え時間の短縮と回数の見直しを検討。（作業区域を小さく区分けし、回数を1回増やすことで進めた。）しかしながら、海の条件が悪くなかなか計画通りには進められないことが問題。



⑤ 浜地里海を育てる会（坂井市）

活動組織名：浜地里海を育てる会

1. 漁業の概要

浜地里海を育てる会のうち、漁業者は雄島漁業協同組合に所属している。

海岸線が砂浜のため、漁獲法は地引網や刺し網である。水揚げされる魚の種類は、コウナゴやフグ・鯛・イナダ・イカなどだが、地曳網については近年、観光用がほとんどで漁獲本来の操業は行われていない。刺し網については一定の操業が行われている。また春のシーズンには離岸堤に繁茂するワカメ漁が盛んに行われ、地区内のいたるところでワカメの天日干しの光景が見られる。

2. 活動組織の運営

（1）活動組織の発足年月日

平成 25 年 7 月 29 日

（2）構成員の数と形態

漁業者：雄島漁協浜地支部 8 名 地引網組合 3 名、浜地海水浴場振興会 2 名、浜地区民（54 戸）

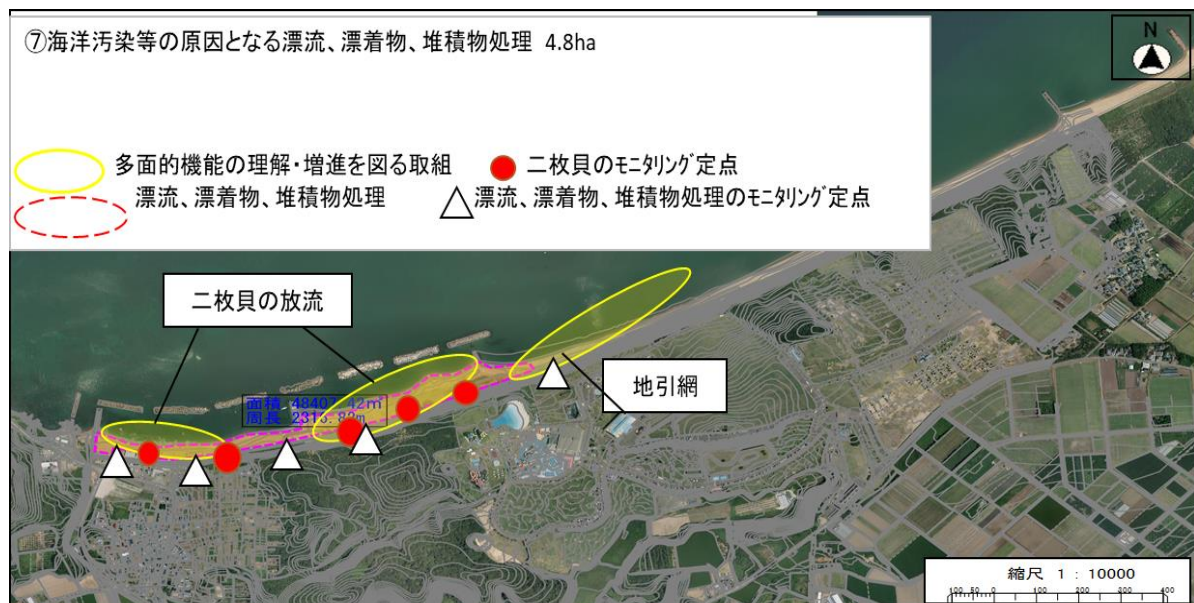
その他の協力団体：越前松島水族館など

（3）活動延べ人数（今年度）

海岸清掃ボランティア（一般参加者、県内企業従業員など）を含むのべ 358 名

（4）活動の対象範囲と対象資源の現状

① 活動場所



② 対象資源の現状

・砂浜海岸につき、地曳網、刺し網漁中心ですが、ホウボウ、鯛、キス、カレイ類、サザエ、赤バイ貝など。この他には離岸堤付近において毎年春にはワカメの収穫が行われています。

(5) 本年度の主な活動

海洋汚染等の原因となる漂流、漂着物、堆積物処理海岸の清掃活動を実施。上記企画の他、地区在住構成員、その他団体などで漂流、漂着物、堆積物処理を9回実施。今季も福井新聞社とトヨタ自動車の県内販売会社グループによる清掃ボランティアが参加した取組も実施しました。

3. 活動の様様



▲清掃作業、回収物



▲ボランティアによる海岸清掃活動



▲海岸清掃作業



▲鋤簾（じょれん）によるモニタリング



▲二枚貝（ハマグリ）の放流



▲当組織の構成員



▲海岸清掃作業



▲清掃作業、回収物

4. 活動記録

活動実施日時			活動参加人数				活動実績	
実施月日	実施時間		総参加者数	構成員		非構成員	活動項目	活動内容
	時間帯	実施時間		漁業者	漁業者以外			
4月22日	7時～10時	3時間	21	5	16		漂着物の処理	海岸清掃作業
6月3日			50	0	0	50	漂着物の処理	海岸清掃作業
6月4日			50	0	0	50	漂着物の処理	海岸清掃作業
6月11日			50	0	0	50	漂着物の処理	海岸清掃作業
6月17日	7時～12時	5時間	117	4	3	110	漂着物の処理	海岸清掃支援作業
7月9日	7時～9時	2時間	8	5	3		漂着物の処理	海岸清掃作業
9月30日	7時～10時	3時間	24	5	19		漂着物の処理	海岸清掃作業 生物モニタリング
10月21日	7時～10時	3時間	14	5	9		漂着物の処理	海岸清掃作業
11月25日	7時～9時	2時間	10	4	6		漂着物の処理	海岸清掃作業
11月26日	9時～10時	3時間	3	3	0		漂着物の処理	ハマグリ放流
4～12月	9時～10時	各1時間	9	9	0		漂着物の処理	定点モニタリング(各回1名)
		計	356	40	56	260		

5. 今年度の活動を振り返って

今年は11月に二枚貝（ハマグリ）放流を実施しましたが、予定日は荒天の為、翌日漁業関係者で放流しました。

4月 当活動組織で清掃作業を行いました。参加者減少課題が浮き彫りになりました。

5月 中止しました。6月に坂井市クリーンキャンペーン、ナニワポンプ(株)社員清掃作業、建築組合清掃作業、福井新聞清掃活動（トヨソーシャルフェスティバル）とボランティア

ア作業が目白押しの為、5月は中止。各企業いろいろご都合もおありでしょうが、毎年ボランティアの清掃作業が6月に集中しています。

7月、8月、海水浴場開設の為中止 海開きが変更になり例年の7月1日から7月10日に変更。

7月9日清掃作業実施。当日、生物モニタリング実施しましたが今回は定着を確認できていません。

9月 清掃作業竹類が多くナイロン袋にての回収が困難でした、予算減額対応、処理方法変更

10月 通常清掃作業

11月 荒天の為作業時間短縮、2枚貝放流は翌日に変更、漁協関係者にて放流
予算減額に伴い予算内で対応、予定を変更すること多い為、事前の予定通りにいきませんでした。

⑥ 三国沖の海を見守る会（坂井市）

活動組織名 三国沖の海を見守る会

1. 漁業の概要

三国沖の海を見守る会の主な構成員は、三国港漁業協同組合に所属している。三国港漁業協同組合の主要な漁業は一本釣りである。春はメバルやアマダイ、夏はアジやヒラマサ、秋はカワハギ、冬はフクラギやタラなどが獲れる。

2. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

平成 31 年 1 月 31 日

(2) 構成員の数と形態

構成員 21 人

(漁業者 20 人・事務員 1 人)

3. 活動内容

通常の漁と併せて、不審船や環境異変の有無を確認する。また、確認記録が記載された日報の取りまとめを行う。

4. 活動実績（令和 6 年 1 月末まで）

第 1 四半期：監視隻数延べ 60 隻、日報の取りまとめ作業 12 日

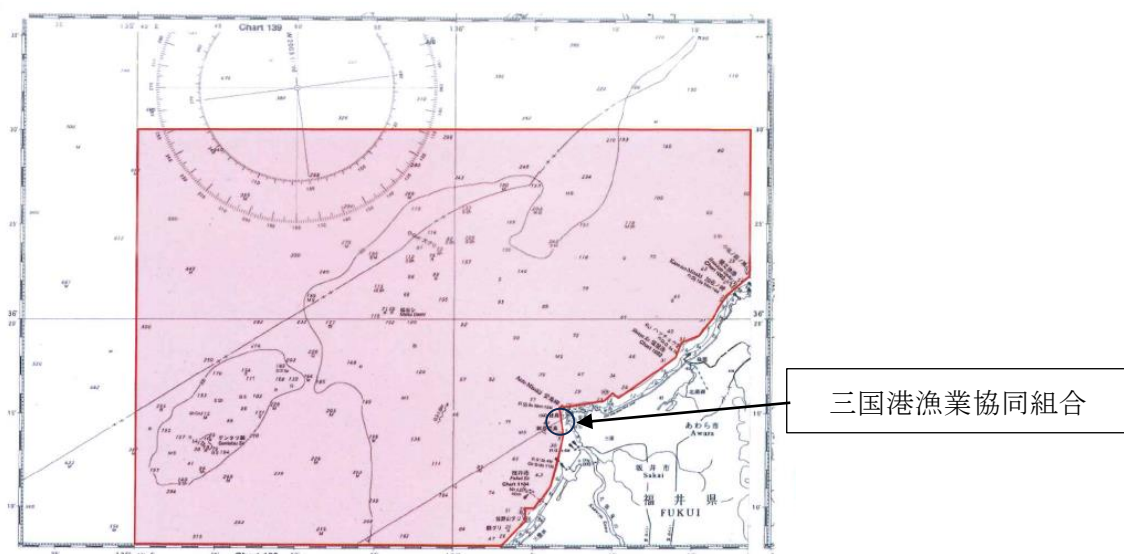
第 2 四半期：監視隻数延べ 87 隻、日報の取りまとめ作業 31 日

第 3 四半期：監視隻数延べ 72 隻、日報の取りまとめ作業 17 日

第 4 四半期：監視隻数延べ 17 隻、日報の取りまとめ作業 6 日

合 計：監視隻数延べ 236 隻、日報の取りまとめ作業 66 日

5. 活動場所



⑦ 勝山九頭竜川環境ネットワーク（勝山市）

活動組織名：勝山九頭竜川環境ネットワーク

1. 組織の概要

勝山九頭竜川環境ネットワークは、勝山市を流れる九頭竜川の地域資源にかかる環境保全、水性生物の保護・増殖等を目的として、勝山市漁業協同組合を中心に地域のふるさとづくり、まちづくり協議会、勝山青年会議所等の団体を構成員として、平成25年7月15日に発足されている。

構成員は173名（漁業者123名、漁業者以外50名）

勝山市漁業協同組合、荒土町ふるさとづくり推進協議会、鹿谷町まちづくり協議会、NPO法人まちづくりのむきの会、旭毛屋子ども会、勝山青年会議所、福井県立大学海洋生物資源学部、サクラマスレストレーション

2. 組織の活動

九頭竜川流域の河川敷き清掃、草刈りや、園児、子供たちを対象に、川に生息する水生生物や、川をきれいにする事の大切さを目的に出前講座を実施した。

活動日	活動区分	活動内容	人数	備考
5月21日	保全活動	河川敷清掃	70	《清掃区域》 勝山南大橋、勝山橋、恐竜橋、発坂事務所前、小舟渡橋の5か所周辺を清掃
6月25日	保全活動	河川敷清掃	58	
9月24日	保全活動	河川敷清掃	44	
6月1日	保全活動	河川敷草刈	16	《草刈り場所》 道の駅前-赤岩右岸-市荒川橋下右岸 妙金島-小舟渡橋右岸-市荒川橋手前右岸 石田おとり-発坂駅前-市荒川橋下左岸 石田おとり-小舟渡駅上左岸-小舟渡下階段
6月3日	保全活動	河川敷草刈	5	
6月5日	保全活動	河川敷草刈	15	
6月6日	保全活動	河川敷草刈	9	
6月7日	保全活動	河川敷草刈	6	
5月17日	啓蒙活動	鮎放流体験	6	荒土小学校20名、上野こども園6名 鹿谷保育園20名、南こども園7名 勝山北部中学校20名 旭毛屋子ども会22名 荒土地区かつやまっ子応援ネットワーク30名
5月25日	啓蒙活動	鮎放流体験	7	
5月31日	啓蒙活動	出前講座	1	
6月17日	啓蒙活動	鮎の捌取り	4	
7月23日	啓蒙活動	料理体験	2	
7月 18、21、23、 24、25、26、 27、31	モニタリ ング	調査釣り	11	《場所》 市荒川橋上流、小舟渡橋、森川、保田岩州、妙金島下流、赤岩、恐竜橋上流、比島、九頭竜碎石、勝山南大橋、ほうき

河川敷清掃



草刈り



出前講座（稚鮎放流体験、料理教室）



調査釣り



3. 活動の状況と今後の課題

風雨、増水の影響により計画したとおりの活動が実施出来なかったが、園児、児童への河川環境の大切さ、水生生物への親しみを主眼としての出前講座は、効果、成果ともに十分なまでに受容できた。

昨年の激甚とされた災害の河川復旧工事が今なお続き、泥水が九頭竜川に注ぎ、九頭竜川の地域資源にかかる環境保全、水性生物の保護・増殖等に重大な影響を及ぼしている。この克服が第一義的な課題である。

⑧ 日野川環境整備協議会（越前市）

活動組織名：日野川環境整備協議会

1. 地域の概要

日野川は一級河川九頭竜川の支流で、流路延長は 71.5km の県管理河川である。福井市、鯖江市、越前市、南越前町で、日野川漁業協同組合の漁場となっている。主要な魚種はアユ、ヤマメ、イワナ等であるが、中でもアユが最も重要な魚種となっており、漁協はアユ中間育成施設を設置し、放流用アユ稚魚の生産・放流を行っている。漁協では、年間を通して遊漁証を販売して釣り人を受け入れるとともに、環境の整備を進めている。



2. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

平成 25 年 7 月 26 日 （活動 10 年目）

(2) 構成員の数と形態

構成員 361 名

（内訳：漁業者 119 名、漁業者以外 242 名）

(3) 活動延べ人数

平成 25 年度 209 人

平成 26 年度 594 人

平成 27 年度 667 人

平成 28 年度	456 人
平成 29 年度	445 人
平成 30 年度	436 人
令和元年度	498 人
令和 2 年度	393 人
令和 3 年度	342 人
令和 4 年度	274 人
令和 5 年度	241 人

(4) 対象地域での保全活動歴

日野川環境整備協議会では、引き続き環境保全に大きな影響を及ぼす内水面の生態系の維持・保全・改善（草刈りや清掃活動）の活動を実施してきた。

3. 保全活動の対象範囲

活動場所



4. 昨年度までの保全活動の実施状況及び効果

日野川環境整備協議会は、平成 25 年 7 月 26 日に設立し、活動を続けてきた。近年、日野川の利用者数の減少や温暖化の影響による豪雨等により、河川敷の草木の繁殖や流木ごみ等の増加が進んできたことから、活動 11 年目となる令和 5 年度も地域住民と協働して草刈りと清掃を実施した。

河川に生茂っていた雑木、雑草をとりのぞく環境整備を進めた結果、野生動物（猪、熊など）の出没が減少し、地域住民からも喜ばれている。

活動実施後は、流域内の生物や利用者数の増加も期待されるため、引き続き環境整備活動を継続していく。

5. 今年度の保全活動の実施状況及び効果

(1) 本年度の活動実施状況

実施日	活動区分	活動内容	参加者数	備 考
R5. 4. 11	モニタリング	生態系の調査	8	鯖江市石田橋下流左岸
R5. 4. 27	モニタリング	生態系の調査	4	松ヶ鼻堰堤
R5. 5. 28	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	3	少人数で実施
R5. 5. 29	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	2	少人数で実施
R5. 6. 1	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	3	少人数で実施
R5. 6. 3	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	8	少人数で実施
R5. 6. 4	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	5	少人数で実施
R5. 6. 5	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	6	少人数で実施
R5. 6. 6	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	4	少人数で実施
R5. 6. 11	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	7	少人数で実施
R5. 6. 14	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	4	少人数で実施
R5. 6. 17	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	4	少人数で実施
R5. 6. 20	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	4	少人数で実施
R5. 6. 23	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	3	少人数で実施
R5. 6. 24	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	89	協定流域
R5. 6. 27	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	5	少人数で実施
R5. 7. 14	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	21	協定流域
R5. 7. 27	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	48	協定流域
R5. 8. 9	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	3	少人数で実施
R5. 8. 10	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	5	少人数で実施
R5. 8. 18	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	5	少人数で実施
R5. 12. 16	普及啓発活動	環境セミナー	190	

(2) 活動内容写真

R5. 4. 11 モニタリング



R5. 4. 27 モニタリング



R5. 5. 28 河川清掃活動



R5. 5. 29 河川清掃活動



R5. 6. 1 河川清掃活動



R5. 6. 3 河川清掃活動



R5. 6. 4 河川清掃活動



R5. 6. 5 河川清掃活動



R5. 6. 6 河川清掃活動



R5. 6. 11 河川清掃活動



R5. 6. 14 河川清掃活動



R5. 6. 17 河川清掃活動



R5. 6. 20 河川清掃活動



R5. 6. 23 河川清掃活動



R5. 6. 24 河川清掃活動



R5. 6. 27 河川清掃活動



R5. 7. 14 河川清掃活動



R5. 7. 27 河川清掃活動



R5. 8. 9 河川清掃活動



R5. 8. 10 河川清掃活動



R5. 8. 18 河川清掃活動



R5. 12. 15 普及啓発活動



6. 活動の成果と今後の課題

活動の成果

4 月初旬に実施した投網によるモニタリング調査では、令和 4 年度の大雨による水産資源への被害が心配されたが、令和 5 年度の稚鮎放流を前に、アユの天然遡上が確認された。

また、12 月には普及啓発活動として「環境セミナー」に参加し、環境・防災の観点から他県の事例を元に、まちづくりに関して学んだ。

今後の課題

河川清掃活動にあたる構成員が高齢化する中、令和 5 年度は作業負担の軽減の為、作業時間や作業場所の見直しをし、活動日数を細かく分けて実施した。引き続き活動を継続していく為には、後継者を確保していくことが課題となってくると考える。

⑨ 敦賀河川を守る会（敦賀市）

活動組織名：敦賀河川を守る会

1. 漁業の概要

敦賀河川を守る会の主な構成員は、敦賀河川漁業協同組合に所属している。敦賀河川漁業協同組合の主な漁獲対象魚種はアユとヤマメ等の溪流魚で、笙の川・黒河川・木の芽川の3河川に年間700人前後の遊漁者が県内外から釣りに来る。組合は、令和5年度はアユを1,100kg、ヤマメ70kgを放流するとともに、産卵場の保護・造成に努め、天然資源の増加に向けた活動を行っている。

2. 活動組織の運営

（1）活動組織の発足年月日

平成25年7月31日 活動10年目

（2）構成員の数と形態

構成員 20名

（内訳：漁業者13名、漁業者以外7名）



（3）活動延べ人数

令和5年度 272人（令和6.3.1現在）

（4）対象地域での保全活動歴

敦賀河川漁業協同組合では、河川清掃を以前から継続して実施するとともに魚類資源の増殖活動を行ってきた。

3. 活動の対象範囲

活動場所



- 河川清掃箇所（5 か所・計 8ha）
- 出前教室（中郷小学校・敦賀南小学校）
- 魚観察会（笹の川）
- ▭ 川床掘り起し（笹の川）

4. 昨年度までの保全活動の実施状況及び効果

河川を利用する人が減少したために、河川敷の草木が増殖し、ごみの不法投棄も増加してきたので、組合では定期的に清掃活動を実施してきた。

しかし、河川利用者が増加しない限り、河川環境の悪化が継続することが懸念される。

そのため『水産多面的機能発揮対策事業』により①河川清掃、②小学校出前教室、③魚観察会とふれあい体験、④川床掘り起しと産卵場整備を実施することで、河川環境整備、小学生への教育と啓発を図ることとした。

5. 令和5年度の活動

本年度は、①河川清掃活動とモニタリング（清掃後の状況・水生生物）、②小学校出前教室、④川床掘り起しと産卵場整備を実施した。

③魚観察会とふれあい体験は今年度も残念ながら中止となった。

(1) 河川清掃活動とモニタリング

令和5年4月22日に衣掛橋上流地区(0.7ha)、5月21日に鳩原地区(3.0ha)、5月22日に奥野橋地区(0.1ha)、5月26日に愛発公民館前地区(3.2ha)、6月7日に道口・衣掛橋下流地区(1.0ha)の草刈りと清掃活動を実施した。

また、草刈りを実施した5か所について、7月から12月にかけて毎月1回のモニタリング調査を実施した。

河川敷清掃活動



活動前の集合写真



活動日時等の記録



草刈り活動前の状況



草刈りと清掃活動状況

モニタリング活動(日常モニタリング・清掃後の変化・7月から12月まで月一回)



集合写真



活動日時等の記録



清掃1か月後



清掃5か月後

モニタリング活動(定期モニタリング・水生物調査・年二回)

令和5年6月26日と12月7日に、草刈りを行った5地区で、水生生物の採集調査を実施した。

調査には、口径25cm×25cm 目合い0.5mmのサーバーネットを用い、1地区で2か所の採集を行い、採集物は50%アルコールで保存した後に実体顕微鏡で分類した。

各地点共に、カゲロウ類の幼虫やトビケラ類の幼虫が確認でき、きれいな水質であることが示された。



調査前の集合写真



活動日時等の記録



採集状況

(2) 放流体験と学校出前教室

令和5年5月10日に中郷小学校2年生による放流体験を、10月27日に同小学校で出前教室を開催し、鮎の生態などの説明、鮎釣りの方法、クイズなどを行い、福井の川で見られる魚の図鑑などを配布した。



放流する稚鮎の展示



稚鮎の放流（大きくなーれ）



鮎釣り名人の講座



鮎の生態などを熱心に聞いている

(3) 魚観察会とふれあい体験

屋外での活動ではあるが、例年多くの子供が集まること、活動場所が広くないことから、新型コロナウイルス感染防止のために本年度も実施を見送った。

(4) 川床掘り起しと産卵場整備

令和5年10月4日に産卵場の整地作業を実施した。

本年度は木の芽川と笙の川の合流点から三島橋までの産卵場で重機による掘り起こしを実施するとともに、手掘りによる掘り起こしも実施した。

産卵場整備



集合写真



産卵場の改良作業（手掘り）



重機による産卵場整備

川床掘り起し

令和5年12月18日～20日、26・27日の計5日間、川床の掘り起しを計2,500mの区間で実施し、魚類の生息に適した浮石状態の川床への改良を実施した。

今年も大雨で大量の土砂が流入しており、掘り起こしの効果は大きかったと考える。



活動日時等の記録



オペレーターとの打合せ



川床の掘り起し作業

6. 昨年度までの課題

川床が浮石状態の良好な環境だったものが、近年では砂の堆積により石が埋没してしまい、川床が固くなるとともに水生昆虫の生息にも支障をきたし餌環境が悪くなっている。

重機による河川改良は作業しても一年で元に戻ってしまうため抜本的解決策の研究が必要である。

魚の遡上を助けるために設置された魚道も老朽化や魚道の入り口に砂が堆積したりして遡上が困難な魚道が多くなっており、改善が必要であるが管理者との協議が順調に進まないことが多く、予算の問題も加わって、解決に至らないものが大部分である。

また、ここ数年に亘って天然遡上するアユの大幅な減少が継続しており、アユ資源の将来が危惧されているため、原因の究明と解決策についての研究開発が望まれる。

7. 今年度の活動の実施状況

令和5年度の活動実施状況

活動日	活動区分	活動の内容	参加人数	備考
R5. 4. 10	年間活動計画	計画・打ち合わせ	9	
R5. 4. 22	河川清掃	草刈り・ごみ清掃	9	衣掛橋上流

R5. 5. 10	教育・学習	放流体験	80	事務所前・中郷小
R5. 5. 21	河川清掃	草刈り・ごみ清掃	8	鳩原
R5. 5. 22	河川清掃	草刈り・ごみ清掃	7	奥野橋
R5. 5. 26	河川清掃	草刈り・ごみ清掃	9	愛発公民館前
R5. 6. 7	河川清掃	草刈り・ごみ清掃	10	衣掛橋下流
R5. 6. 26	生物モニタリング	水生生物調査	5	5 か所
R5. 7. 19	第 1 回モニタリング	ゴミ・草等の確認	3	清掃した 5 か所
R5. 8. 23	第 2 回モニタリング	ゴミ・草等の確認	3	清掃した 5 か所
R5. 9. 18	第 3 回モニタリング	ゴミ・草等の確認	3	清掃した 5 か所
R5. 10. 4	産卵場整備	川床掘り起しと整地	7	笙の川
R5. 10. 18	第 4 回モニタリング	ゴミ・草等の確認	3	清掃した 5 か所
R5. 10. 27	教育・学習	出前教室	75	中郷小学校
R5. 11. 15	第 5 回モニタリング	ゴミ・草等の確認	3	清掃した 5 か所
R5. 12. 7	生物モニタリング	水生生物調査	5	5 か所
R5. 12. 13	第 6 回モニタリング	ゴミ・草等の確認	3	清掃した 5 か所
R5. 12. 18	川床掘り起し	生息環境改良	6	道口事務所前
R5. 12. 19	川床掘り起し	生息環境改良	6	衣掛～JR 鉄橋
R5. 12. 20	川床掘り起し	生息環境改良	6	JR 鉄橋～堂橋
R5. 12. 26	川床掘り起し	生息環境改良	6	堂橋～堂新橋
R5. 12. 27	川床掘り起し	生息環境改良	6	堂新橋～合流点
参加人数合計 272 名				

8. 今後の課題や計画

今年度は放流体験と出前教室は実施できたが、夏季のふれあい体験はコロナウィルスの感染防止のために中止せざるを得なかった。

ふれあい体験は参加者が増加傾向にあったことから、開催場所を従前の狭い橋の下から、より広い場所での開催を検討する必要がある。

出前教室については、他の学校からも要望があるので追加する必要もあるが、学校数が増加すると日程調整が困難となる事が課題である。

河川環境の改善に向けて、河川環境の改善や魚道の改良が必要であり管理者との継続的な協議が必要である。

⑩ 敦賀湾磯焼け防止会 （敦賀市）

活動組織名：敦賀湾磯焼け防止会

1. 地域の概要

敦賀市は、福井県の中央部に位置し、人口約6万3千人の市である。当グループの活動場所はリアス式海岸が敦賀湾を囲む西浦地区と東浦地区である。敦賀湾は日本海の荒波の影響を受けにくい養殖漁業に適した海域や、湾口から波が押し寄せる岩礁が点在する海域など、季節や天気によって、また場所によって様々な表情を見せる、魅力ある海である。湾奥部には日本三大松原である名勝地「気比の松原」が位置している。

2. 漁業の概要

敦賀湾磯焼け防止会の主な構成員は、敦賀市漁業協同組合に所属している組合員であり、湾内では定置網漁、ナマコけた網漁、タコつぼ及びかご漁、一本釣り漁、素潜り漁、磯見漁、刺網漁、養殖業が行われ、湾外では延縄漁、刺網漁、タコつぼ漁、一本釣り漁を行っている。

天然魚種では主にサワラ類、アジ類が多く漁獲される。中でも延縄漁で漁獲される甘鯛は「若狭ぐじ」としてブランド化されている。養殖漁業では、昭和50年代からマダイ、トラフグ養殖が行われており、「敦賀真鯛」「敦賀ふぐ」としてブランド化されている。

3. 活動組織の運営

（1）活動組織の発足年月日

令和4年12月1日 活動1年目

（2）構成員の数と形態

構成員 約180名 （漁業者、敦賀市漁業協同組合）

（3）活動延べ人数

令和5年度 123人

食害生物の除去、海藻の種苗投入、モニタリング、教育活動を実施し、それぞれ61人、26人、33人、3人が参加した。

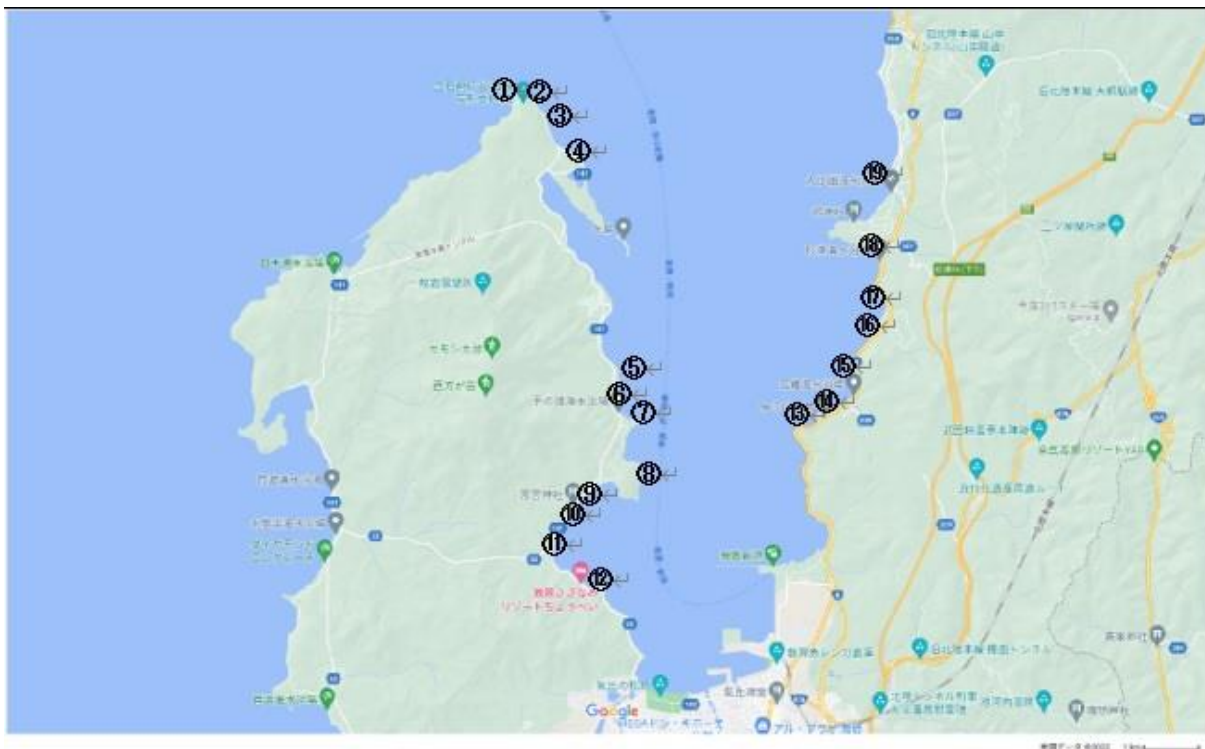
（4）対象地域での保全活動歴

以前から個々人で素潜り漁をする際に、食害生物であるムラサキウニの駆除を行っていたが、普段は自分の地先しか潜らない敦賀の漁師が、協力し合って海藻を増やそうと、令和4年度に当会を結成し、令和5年度から活動している。

敦賀市漁業協同組合が藻場造成に効果のあるカキ殻を詰めた魚礁を設置したり、国交省や民間の業者が主体となって海藻に必要な栄養素が含まれたプレートを設置するなど、様々な藻場再生の取り組みを敦賀湾で行っているが、それでも磯焼けはまだまだ改善していないという背景があった。

4. 保全活動の対象範囲と対象資源の現状・課題

(1) 活動場所



食害生物の除去①～⑤、⑦～⑪、⑬、⑭ 計 12 箇所

海藻の種苗投入③、⑥、⑧、⑨、⑪～⑭、⑯、⑱ 計 11 箇所

モニタリング ①～⑱ 計 19 箇所

(2) 対象資源の現状・課題

敦賀湾沿岸の中でも環境は地区によって異なっているが、今回設定した地区ではどの地区も磯焼けが起こっていた。磯焼けが直接の原因かどうか分からないが、敦賀湾では痩せたアワビやアワビの死骸が見つかったり、シタダミがいなくなったほか、モズクの減少等が確認されている。

海中に潜ると、岩に海藻が生えず剥き出しになり、そこに大量のムラサキウニが付いている様子が見られる箇所があり、このような箇所を拡大させてはならないと感じる。

敦賀湾の中でも、磯焼けが起きていたがムラサキウニの採取と養殖用ワカメを繁殖目的で育てるなどの活動を以前から行っていた地区の漁師は、磯焼けが改善してきたと言っているので、敦賀湾全体で改善されるような活動が必要である。

水産試験場に敦賀湾の磯焼けについて問い合わせをしたところ、磯焼けの調査を行ったことはあるが、その原因までは分からず、様々な要因が重なっているのではないかとの回答であった。水産試験場でも原因が分からないのであれば、考える原因を自分達で解決していくほかないが、地球温暖化や海工事の影響であればどうすることもできず、海藻を食べるムラサキウニが磯焼けを加速させる原因のひとつであると考え、その駆除を継続し、海藻の種苗投入等を行って試行錯誤するしかない。

5. 保全活動の実施状況及び効果

(1) 活動実施状況

実施日	活動区分	活動内容	参加者	備考
R5. 9. 29	藻場の保全	食害生物の除去（ウニ類）	10 名	漁業者、組合職員、 県職員
R5. 10. 2	藻場の保全	食害生物の除去（ウニ類）	10 名	漁業者、組合職員、 県職員
R5. 10. 4	藻場の保全	食害生物の除去（ウニ類）	7 名	漁業者、組合職員、 県職員
R5. 10. 5	藻場の保全	食害生物の除去（ウニ類）	7 名	漁業者、組合職員、 県職員
R5. 10. 12	藻場の保全	食害生物の除去（ウニ類）	9 名	漁業者、組合職員、 県職員
R5. 10. 13	藻場の保全	食害生物の除去（ウニ類）	7 名	漁業者、組合職員、 県職員
R5. 10. 16	藻場の保全	食害生物の除去（ウニ類）	5 名	漁業者、組合職員、 県職員
R5. 10. 19	藻場の保全	食害生物の除去（ウニ類）	6 名	漁業者、組合職員、 県職員
R5. 12. 1	藻場の保全	海藻の種苗投入	16 名	漁業者、組合職員、 県職員
R5. 12. 4	藻場の保全	海藻の種苗投入	3 名	漁業者、組合職員
R5. 12. 4	藻場の保全	モニタリング	21 名	漁業者、組合職員
R5. 12. 5	藻場の保全	海藻の種苗投入	7 名	漁業者、組合職員
R5. 12. 5	藻場の保全	モニタリング	7 名	漁業者、組合職員
R5. 12. 14	藻場の保全	モニタリング	5 名	漁業者、組合職員
R6. 1. 31	藻場の保全	教育活動	3 名	漁業者、組合職員、 県職員

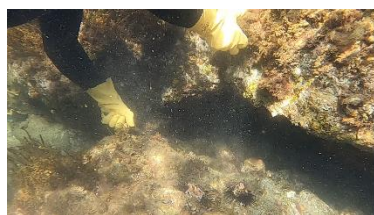
(2) 活動実施効果

9 月に初めての食害生物の除去（ムラサキウニの駆除）を行った。以後 10 月 19 日まで延 8 日間、20 時間活動を行った。ムラサキウニの生息数が多く、一人当たり 1 時間で 100 匹以上駆除してもまだまだ生息しているようだった。

また、12 月に海藻の種苗を魚かごに入れたものを 11 基海底に投入した。今後の成長に期待する。同じく 12 月に 19 箇所モニタリングを行い活動が必要であることを確認した。

翌年 1 月には敦賀南小学校の 5 年生を対象に教育活動を行った。当会の活動内容と地球温暖化を結び付けて授業を行い、1 コマの予定が業間にまで延長するほど児童の関心が高く、授業を見学していた校長からも良い評価を得た。

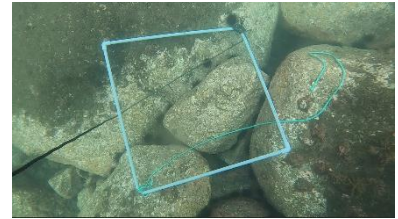
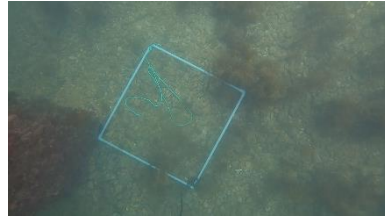
食害生物の除去



海藻の種苗設置



モニタリング



教育・学習活動



6. 初年度で見た活動の課題

敦賀市の漁業者は、先に述べた通り様々な漁業種で生計を立てているが、季節や漁期によって漁業種を変える人が多い。その中でも、地区によって漁期は異なるが、多数が夏季に素潜り漁や磯見漁を行う人が主となってこの活動を行っている。また、漁家民宿を営んでいる、漁業とは全く関係のない仕事に勤めている兼業の漁業者もいる。このようにそれぞれ繁忙期が違うなど活動の日程調整が困難なうえ、食害生物の除去活動においてはムラサキウニの繁殖期を外し、かつ海水温も低くなりすぎない時期に行おうとすると、参加できる人が限られた日が多かった。中には皆が集まる日に参加できないので、自分の活動できる時間に一人で活動した人もいた。活動を複数人で行うこととすると活動が限られてくるので、来年度はもっと柔軟に対応した方がよい。

また、素潜り漁の最盛期を外して食害生物の除去活動を行おうとすると、波当たりの強い地区があり、不慣れな人が潜るには危険と判断した地区や、大雨による土砂の流入によって濁りがひどくなり除外した地区があったので、来年度からそのような地区は当会の活動区域としては除外し、地元の漁業者に任せることとした。

海藻の種苗投入について、種苗はサカイオーベックスから購入しており、その担当者によると、投入時期は海水温が下がる11月下旬以降が望ましいとの説明を受け、天気を見ながら12月1日から順次各地区で設置を行った。日程の都合上12月に設置できない地区の種苗は平穏な海域に仮置きして日程を調整し、2月に実際に海藻が増えて欲しい地区へと移設した。今年は温暖化の影響か海の様子が例年と違っていたため、あまり時化ることなく無事に育ってくれることを願う。

⑪ 魚達の住みよい川・湖づくりの会（若狭町）

活動組織名：魚達の住みよい川・湖づくりの会

1. 漁業の概要

本会の主な構成員は、鳥浜漁業協同組合をはじめ、地元の鳥浜区の団体などが所属している。同漁業協同組合では、三方湖において、コイやフナなどを主に漁獲しており、その漁獲方法としては、たたき網漁や柴づけ漁など伝統漁法を継承している。

2. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

平成 25 年 7 月 30 日

(2) 構成員の数と形態

構成員 55 名

(内訳：漁業者 26 名、漁業者以外 29 名)

(3) 活動延べ人数

令和 5 年度 59 人（令和 6 年 2 月 14 日現在）

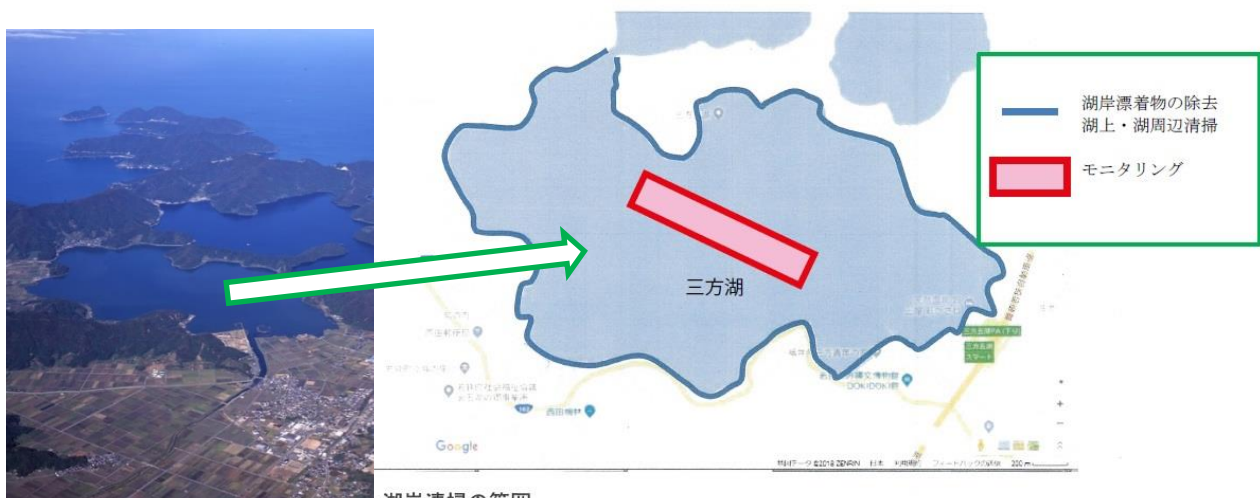
(4) 対象地域での保全活動歴

今年度はヒシの繁茂が少なく、清掃作業はスムーズに行うことができたが、場所によってはヒシの残骸がついた大きなヨシの株もあり、手作業で引き上げるのに苦労した。

また、中には、手作業では回収できないほどの大きな株や流木・船で入ることのできない船溜まりの奥のペットボトルや浮遊物などの取り残しもある為、水質の悪化が懸念される。

3. 保全活動の対象範囲

活動場所



湖岸清掃の範囲

三方湖周囲9.2km×湖岸から0.01km(10m)の範囲=0.092km² 約9ha

モニタリング 1ha

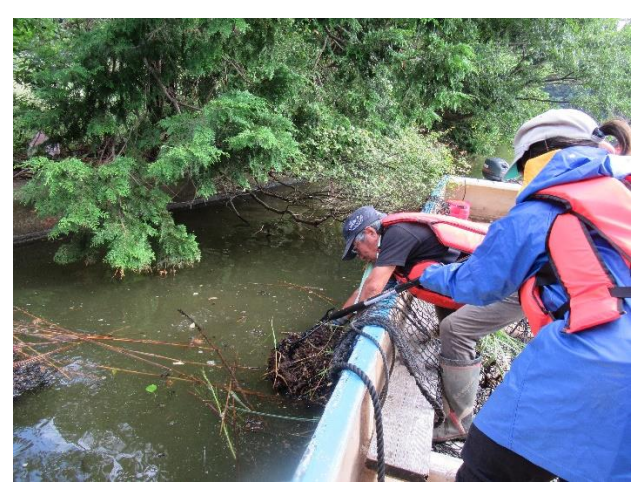
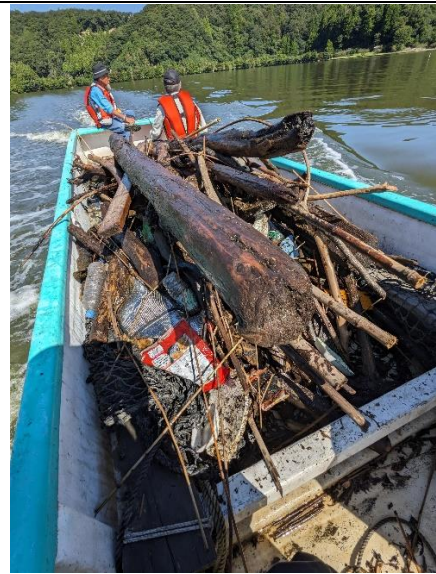
4. 昨年度までの保全活動の実施状況及び効果

大量のヒシが繁殖することが多く、広範囲に繁殖すると水中酸素濃度が低くなり、大量に浮上した実が腐敗することで悪臭の原因となる。また、台風や集中豪雨により山からの泥水と共に流木やゴミが三方湖に入ってくる。回収できない流木・ヨシの株やゴミなども多い。そのため、こういったことが魚類の生息に大きな悪影響を及ぼさないよう、三方湖の清掃を実施することにより、環境保全を図っている。

5. 今年度の活動の実施状況

本年度の活動実施状況

実施日	活動区分	活動内容	参加人数	使用船隻	備考
R5. 6. 21	保全活動	湖岸漂着物の除去 湖上周辺清掃	5 人	1 隻	
R5. 7. 23	保全活動	湖岸漂着物の除去 湖上周辺清掃	4 人	1 隻	
R5. 8. 31	保全活動	湖岸漂着物の除去 湖上周辺清掃	4 人	1 隻	
R5. 9. 23	保全活動	湖岸漂着物の除去 湖上周辺清掃	4 人	1 隻	
R5. 9. 29	保全活動	湖岸漂着物の除去 湖上周辺清掃	11 人	2 隻	
R5. 10. 11	保全活動	湖岸漂着物の除去 湖上周辺清掃	10 人	2 隻	
R5. 11. 3	保全活動	湖岸漂着物の分別 片付け作業	6 人	1 隻	
R5. 11. 4	保全活動	湖岸漂着物の分別 片付け作業	5 人	1 隻	
R6. 1. 5	保全活動	モニタリング	4 人	4 隻	
R6. 1. 10	保全活動	モニタリング	2 人	2 隻	
R6. 1. 14	保全活動	モニタリング	2 人	2 隻	
R6. 1. 17	保全活動	モニタリング	2 人	2 隻	



6. 今後の課題や計画

今年度は特に流木が多く、手作業では回収できない流木も多くあった。

また、回収に困難なヨシの株やその他のゴミなども多く、回収方法が今後の課題である。 魚達が住みよい環境となるようゴミのない美しい湖を目指し、回収方法を検討しながら継続した保全活動を行っていく必要がある。

⑫ 世久見海士組合（若狭町）

活動組織名：世久見海士組合

1. 漁業の概要

本会の主な構成員は地元の世久見大敷網組合、若狭三方漁業協同組合に所属している世久見地区の潜り漁師で、主な漁獲対象物はアワビ、サザエ、アカウニ、ナマコ等である。同地区では、古くから定置網漁業が盛んであったが、近年では若手漁師を中心に潜り漁も地元の重要な漁業となっている。同地区の漁業者の話によると昔と比べ海藻類の繁藻状況が悪くなってきており、潜り漁業への影響が心配されている。本会は食害生物（ムラサキウニ）の駆除や漂流漂着ゴミの清掃を通じて、藻場等の地域資源の維持・回復を図り、次世代の漁業者に継承する活動を行っている。

2. 活動組織の運営

（1）活動組織の発足年月日

令和5年3月1日

（2）構成員の数と形態

構成員 21名

（内訳：漁業者20名、漁業者以外1名）

（3）活動延べ人数

令和5年度 151人（令和6年2月28日現在）

（4）対象地域での保全活動歴

世久見地区の地先の浜を中心に令和5年5月～10月にかけて10回漂流・漂着ゴミの清掃活動を行い、約5.0tの漂流・漂着ゴミを回収した。

同年6月には磯焼け状況の現状確認を目的として世久見海岸の5か所でモニタリングを実施し、海藻の繁藻状況を記録した。同年9月には食害生物（ムラサキウニ）の駆除活動を3回行い延べ23名で約12,000個の食害生物を駆除した。また、藻場造成を目的として共和コンクリート工業（株）製の漁礁を160基設置した。

さらに、漂流・漂着ゴミによる環境汚染について知ってもらう為に、小学生を対象とした教育活動を2回実施した。

3. 保全活動の対象範囲

活動場所



図1 活動範囲①

海洋汚染等の原因となる

漂流、漂着物、堆積物処理 1.0ha



図2 活動範囲②

藻場の保全 4.0ha

✕ : モニタリング定点 5か所

■ : 活動区域

4. 今年度の活動の実施状況

200m×50m 1.0ha 4か所

本年度の活動実施状況

実施日	活動項目	活動内容	参加者数	備考
5月1日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	7人	1回目
5月8日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	5人	2回目
5月15日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	5人	3回目
5月22日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	6人	4回目
5月29日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	5人	5回目
6月5日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	5人	6回目
6月6日	藻場の保全	モニタリング	9人	
6月19日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	5人	7回目
6月26日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	5人	8回目
6月通月	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	20人	重機による浜清掃活動
9月1日	藻場の保全	ムラサキウニ駆除	12人	1回目
9月4日	藻場の保全	ムラサキウニ駆除	5人	2回目
9月6日	藻場の保全	ムラサキウニ駆除	8人	3回目
9月15日	藻場の保全	漁礁(カイノス)入荷	3人	
9月19日	藻場の保全	漁礁(カイノス)設置	12人	
9月22日	漂流、漂着物処理	学習・教育(海ゴミ講座)	17人	梅の里小学校
9月26日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	6人	9回目
10月11日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	16人	10回目

漂流・漂着物の清掃活動



食害生物（ムラサキウニ）の駆除活動



藻場造成のための漁礁設置



5. 今後の課題や計画

近年、同地区では海藻の繁藻状況が悪く地肌の見えている転石も多くみられた。一方で食害生物（ムラサキウニ）の数は数えきれないほど多く、今年度の活動で 12,000 個ほど駆除したものの全く駆除が追い付いていないと感じた。人員を増やして駆除活動を続けていく他ないが、人員の増大にも若い漁業者の数は限られており課題が残る。次年度以降も同様の活動を根気強く続けていきたい。

⑬ 小浜市海のゆりかごを育む会（小浜市）

活動組織名：小浜市海のゆりかごを育む会

1. 漁業の概要

約 10 年前に漁獲量の減少が止まり、低調に推移している中で、魚価の低迷が進み、漁業経営の環境は厳しい状況となっている。また、推計であるが小浜湾内の藻場は約 600ha であったが、近年では 156ha にまで減少した。また、カキ養殖が盛んな地域だが、近年は不作の状況が続いている。

2. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

平成29年3月1日発足 活動6年目

※平成 25 年発足の海のゆりかごを育む会と平成 15 年発足の小浜市豊かな海の森を育てる会が合併し、当会を発足した。

(2) 構成員の数と形態

構成員 401 名（内漁業者 274 名）

(3) 活動延べ人数

令和5年度 約300人

(4) 対象地域での保全活動歴

甲ケ崎・仏谷においてアマモ場の保全活動、矢代・西津・仏谷においてウニの密度管理、全域において藻場増殖礁の設置と海岸漂着物の回収を行った。

3. 保全活動の対象範囲と対象資源の現状・課題

(1) 活動位置 (藻場保全：9.69ha 海岸漂着物：4.7ha)



① 田鳥	② 矢代	③ 志積	④ 犬熊	⑤ 阿納	⑥ 西小川
⑦ 加尾	⑧ 宇久	⑨ 甲ヶ崎	⑩ 若狹	⑪ 仙谷	⑫ 堅海

(2) 対象資源の現状課題

推計であるが小浜湾内の藻場は約 600ha から、近年では 156ha にまで減少している。加えて、台風や冬季の波浪による、海岸漂着物が様々な活動の妨げとなっている。

4. 昨年度までの保全活動の実施状況及び効果

(1) 藻場の保全

アマモ場保全

福井県立大学の研究者の協力の下、モニタリングや調査を実施し、活動の見直しを行った。アマモの播種に関しては、昨年度から始めたマット方式で播種を行った。

藻場増殖礁の設置

小型の藻場増殖礁を 19 基 3 か所（阿納 7 基、志積 5 基、田島 7 基）において実施。設置場所については、県立大学によるサポートと漁業者の知見で設定している。

ウニの密度管理

矢代地区において、3 回ウニの駆除を実施した。昨年度は 2 回しか実施できなかったため、手を入れることができなかった場所では磯焼けの進行が見られた。

西津地区では、8 月に 1 回実施した。仏谷地区では、7 月に 5 回実施した。

(2) 海岸漂着物の回収

各集落に回収用フレコンバッグを配布し、集落単位での回収活動を行っている。フレコンバッグを配布しておくことで、一斉清掃だけでなく、日常的な回収作業も行っている。また、時化による漂着物についても可能な範囲で回収を行った。

障害者就労支援施設と委託契約を行い、漂着物処理事業を実施した。また、福井県海浜自然センター主催の漂着物調査に協力した。

(3) 教育・学習活動

漂着ごみについては、親子・一般対象の講座や高校生対象の講座を行った。

藻場については、小学生対象の講座と海浜センターとの共催で親子・一般対象の講座を行なった。

5. 今年度の保全活動の実施状況及び効果

(1) 藻場の保全

アマモ場保全

福井県立大学の研究者らとモニタリングを行ったが、生育状況は例年にくらべ良くなかった。

今年はアマモの種子の確保が難しく、マット方式での播種は断念し、種子の散布を数ヶ所で実施するにとどまった。

藻場増殖礁の設置

小型の藻場増殖礁を 20 基 3 か所（阿納 10 基、志積 5 基、田島 5 基）において実施。設置場所については、県立大学によるサポートと漁業者の知見で設定している。

ウニの密度管理

志積地区・矢代地区でのウニ駆除を実施した。

(2) 海岸漂着物の回収

各集落に回収用フレコンバッグを配布し、集落単位での回収活動を行っている。フレコンバッグを配布しておくことで、一斉清掃だけでなく、日常的な回収作業も行っている。また、時化による漂着物についても可能な範囲で回収を行った。

これまで本事業での回収を行っていなかった2海岸で、市民や中学生・高校生の協力のもと、回収作業を行なった。

障害者就労支援施設と委託契約を行い、漂着物処理事業を実施した。

(3) 教育・学習活動

漂着ごみについては、親子・一般対象の講座や高校生対象の講座を行った。

藻場については、小学生対象の講座と海浜センターとの共催で親子・一般対象の講座を行った。

R5 年度活動実施状況（2 月末まで）

実施時期	活動項目	活動内容	人数	備考
R5. 6	藻場の保全	アマモモニタリング	8	仏谷
R5. 6	藻場の保全	藻場モニタリング	10	矢代
R5. 7	藻場の保全	藻場モニタリング	7	仏谷
R5. 7	藻場の保全	ウニ駆除	8	矢代・志積
R5. 7	海岸漂着物	漂着物学習	2 参加者 54	内外海小 4, 5, 6 年
R5. 7	藻場の保全	藻場学習	1 参加者 62	美郷小 5 年
R5. 10	海岸漂着物	漂着物学習	1 参加者 62	美郷小 5 年
R5. 10	藻場の保全	藻場の視察	2	志摩市
R5. 11	海岸漂着物	漂着物学習	1 参加者 30	小浜中学 1 年
R5. 11	海岸漂着物	海岸漂着物回収	4 参加者 25	勢浜海岸
R5. 12	藻場の保全	母藻の設置	10	20 基 3 箇所
R6. 2	海岸漂着物	海岸漂着物回収	3 参加者 32	加尾海岸
R6. 2	海岸漂着物	海岸漂着物回収	7	甲ヶ崎海岸 2 回
R6. 2	海岸漂着物	漂着物学習	1 参加者 29	若狭高校 1 年

6. 活動写真（令和5年度）

（1）藻場保全



アマモ場とガラ藻場でモニタリングを実施



潜水によるウニ駆除

（2）海岸漂着物の回収



これまで回収作業を行っていなかった場所での実施

（3）教育・学習活動



漂着物学習



藻場学習

7. 今後の課題や計画

アマモ場に関しては、研究者との2年間の調査・検討の結果、これまでの活動区域での回復事業は難しい、との判断に至った。今後は、現存するアマモ場の保全をどう進めていくかを協議していきたい。

ウニの密度管理に関しては、NPOからの参加が年々難しくなっているので、漁業者が協力して実施する方向へとシフトしていきたい。

漂着物の処理については、引き続き障害者施設に委託し、効率的な方法を探していきたい。また、一般市民や生徒・学生の回収作業への参加が進むよう、呼びかけるとともに、教育・学習活動についても積極的に進めていきたい。

⑭ 南川ラインレスキュー隊（小浜市）

活動組織名：南川ラインレスキュー隊

1. 背景

南川は2級河川で天然の鮎も遡上する豊かな川だが、最近山から流れ出る土砂等が鮎の成育にも影響を及ぼしている。また草や木が生い茂り、景観の悪化から危険な場所という認識やゴミの不法投棄に繋がっているのが現状である。

現在、河川組合員等の漁業者も高齢となっており、良好な河川を次世代につなぐために、川を守りたいという機運を盛り上げることが急務である。現代の子ども達は南川で遊んだ経験がなく、このままでは良好な川を次代につなぐ者がいなくなるのではという危機感から過去に遊んだ記憶のある有志が集まり美化活動と教育活動(体験)を開始。

2. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

平成29年2月7日発足 活動7年目

(2) 構成員の数と形態

構成員 約100名（漁業者以外約85名）

(3) 活動延べ人数

令和5年度 約290人（R6.2.29現在）

(4) 対象地域で、水産多面的事業の実施

- ①ヨシ帯の保全活動・川のごみ清掃
- ②教育活動
- ③水質調査
- ④モニタリング

3. 活動の実施状況

(1) ヨシ帯の保全活動・河川のごみ清掃

年間回2実施。構成員の活動がしにくい状況もあり人数を制限して実施。

ゴミ回収量約2000。活動エリアにおいて例年の作業実績により不法投棄のごみの量が減少しつつある。

(2) 教育活動

南川流域にある今富小学校において学年を固定して座学と現地学習を交え年間を通して総合的に実施して7年目。草刈りやゴミ拾い、水辺の安全講習、水質調査、生き物調査や漁師体験、鮎の実食体験を専門家の協力を得て深めている。

その年の学習の方向性などを踏まえ、児童の学びの意欲を引き出した取り組みとなっていることで自発的な行動に結び付いている。成果として南川の環境や生息する生物生態など学んだことを伝える

(3) 水質調査

水温や水質、透明度の調査、試薬を使ったCOD等の測定を実施。計測方法を大学の先生

の協力を得て学び、数値的に飲み水にも値する良好な川であると確認できた。

(4) モニタリングについて

水生生物による環境指標で南川の状態は良好であることが確認できた。

生き物の特性を知ることによって河川と海のつながりを実感することができた。

ドローン撮影による活動記録やサケの産卵床調査を実施

令和5年度の活動実施状況

実施日	人数	場 所	活動項目	イベント	内 容
5月22日	58	南川左岸	内水面 ヨシ帯	草刈り ゴミ拾い 水質調査	草刈り、ゴミ拾い、外来植物除去、専門家の指導のもと水質調査を実施【今富小学校も参加】
6月23日	54	今富小学校	教育活動	生き物事前学習	専門家による川の成り立ち、水生生物座学 【今富小学校】
7月3日	57	南川左岸	教育活動	安全講習	専門家から南川で体験する際の安全管理講習 【今富小学校】
7月11日	58	南川左岸	内水面	生き物調査 モニタリング	水生生物を採集し、モニタリング【今富小学校も参加】
9月28日	58	南川左岸	教育活動 内水面	鮎の観察 ゴミ拾い	川漁師に学ぶ漁具と使い方、鮎ヒレの観察と実食。環境美化 【今富小学校】
11月24日	2	南川右岸	内水面	サケの産卵床調査	ドローン撮影にてサケの産卵床調査

活動の状況

- ・ヨシ帯保全活動、ごみ拾い



- ・モニタリング（生き物調査）



- ・小学校教育活動（川の安全学習）



4. 効果と課題

清掃活動およびヨシ帯保全については、環境の整備が進み、人が集える環境に近づいてきている。教育活動による意識改革は地域にも大きな効果を生んでいる。一年を通して総合的に南川をフィールドに環境学習に取り組んできたことにより、子ども達が自主的にゴミ拾いをする姿が見られるなど環境保全に対し意識の醸成が生まれていることを感じる。生物調査においても継続して安定の状態が見られている。

子ども達の積極的な活動は保護者への啓発にもつながり、学習に取り組んできた子どもが南川の環境を守っていくことの大切さを後輩へ伝えるなど活動が受け継がれている。

清掃活動については、行事等と重なり人材不足により活動の限界もあり縮小していかざるを得ない状況である。関わるメンバーの減少は否めないが、子ども達が南川を通して、未来へ良好な環境維持の大切さを受け継いでいく気持ちを醸成できるよう、今後も活動をコーディネートする仕組みづくりと人材育成を考えていきたい。

サケの産卵床は、今年度は見られなかった。その理由の検証もふくめ今後も状況を確認していきたい。

⑮ おおい町大島地区の海を守る会(おおい町)

活動組織名：おおい町大島地区の海を守る会

1. 漁業の概要

大島地区は漁業が盛んな地域であり、種苗の放流ウニ駆除など資源保全・確保に努めているが、近年のサザエ・アワビの漁獲量は低下傾向にあり、漁業経営は厳しい状況となっている。

2. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

令和4年2月25日

(2) 構成員の数と形態

構成員：約 72 名（内訳 漁業者 60 名 漁協 12 名）

(3) 活動延べ人数

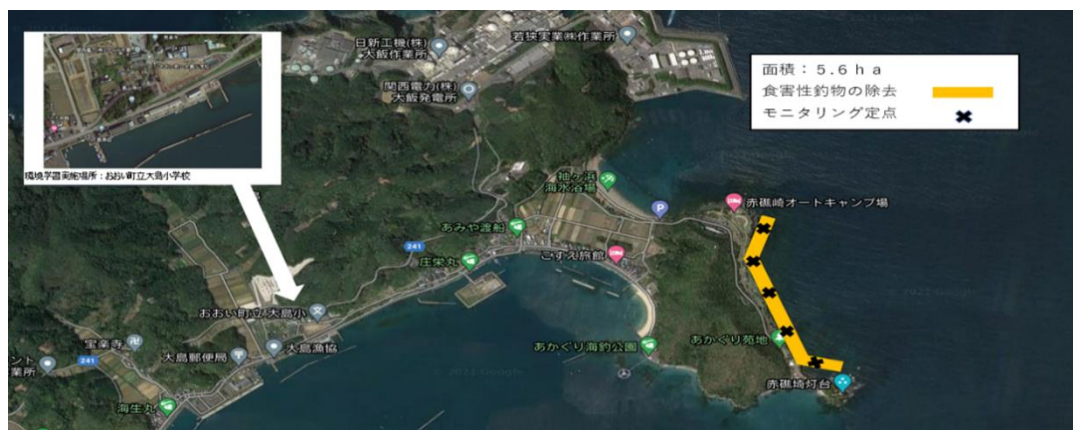
令和5年度 30名 (令和6年1月31日時点)

(4) 対象地域での保全活動歴

大島長浦周辺において、ムラサキウニの密度管理や駆除、大島地域の小学生に環境学習を実施した。

3. 保全活動の対象範囲と対象資源の現状・課題

(1) 活動位置(長浦 藻場保全面積 5.6ha) 環境学習(大島小学校)



(2) 対象資源の現状・課題

近年、大島長浦周辺では目視で確認できるほどのムラサキウニの大量繁殖によって、藻場が荒らされておりサザエ・アワビの餌場が減少している。それに伴い漁獲量も減少し、今後の資源確保が課題となっている。

4. 保全活動の実施状況及び効果

(1) 本年度の活動実施状況

実施日	活動区分	活動内容	参加者数	備考
R5. 6. 8	モニタリング	藻場状況の確認	8 名	大島長浦
R5. 6. 27	保全活動	藻場の保全活動 (有害生物の除去)	31 名	大島長浦
R5. 6. 28	保全活動	藻場の保全事業 (有害生物の除去)	30 名	大島長浦
R5. 7. 28	保全活動	藻場の保全事業 (有害生物の除去)	23 名	大島長浦
R5. 9. 16	保全活動	藻場環境学習準備	5 名	大島漁協

(2) 活動内容写真

「モニタリング」

(海藻等のモニタリング)



「藻場の保全」 有害生物の除去



(活動参加者)



(教育学習)



(3) 効果

2年目の活動ということもあり、漁業者はスムーズに活動することができた。ウニの数も昨年より減少傾向にあり活動の効果を目で感じることができた。引き続き活動を通して責任感を持ち、豊かな海を作っていききたい。

5. 今後の課題や計画

1年目に比べ藻場や外敵駆除に対し、より理解を深めることができた。特に小学生を対象とした環境学習は生徒のみならず教職員からも一過性に過ぎず、継続的に実施してほしいとの意向が聞けた。今後も地域を巻き込んだ藻場作りに取り組んでいき、駆除に関して言えば、

利活用にも目を向け自然との共存を目指していきたい。

⑩ 若狭高浜ブループロジェクト（高浜町）

活動組織名：若狭高浜ブループロジェクト

1. 漁業の概要

若狭高浜ブループロジェクトの主な構成員は、若狭高浜漁業協同組合に所属しており、様々な漁業が盛んである中、サザエ・アワビ・アカガイの種苗の放流等も行っており、年間を通じて藻場の恩恵を受けている。

2. 活動組織の運営

（1）活動組織の発足年月日

令和2年2月10日

（2）構成員の数と形態

構成員：165名（内訳 漁業者：161名、漁協：4名）

（3）活動延べ人数

○令和2年度 53人（令和3年1月31日時点）

○令和3年度 46人（令和4年3月3日時点）

○令和4年度 28人（令和4年3月7日時点）

○令和5年度 32人（令和6年2月21日時点）

（4）対象地域での保全活動歴

高浜町では、引き続き「若狭高浜ブループロジェクト」が主体となって、保全活動の計画づくり、モニタリング、及び藻場の保全活動として、有害生物の除去（ムラサキウニの駆除）や母藻（貝藻くん）の設置活動、廃棄物（ムラサキウニ）の利活用方法の検討・試作を実施してきた。また今年度よりワカメの種苗糸を使用し、母藻の設置を行なった。

3. 保全活動の対象範囲と対象資源の現状・課題

（1）活動位置（高浜地区鷹島周辺藻場面積：4.0ha）

- 活動範囲
- モニタリング位置



(2) 対象資源の現状・課題

近年、藻場の減少が深刻化しており、その原因となっているのは十数年前より大量繁殖したムラサキウニによる食害である。本年度活動位置の高浜地区鷹島周辺等は、目視でも確認できるほどのムラサキウニに埋め尽くされている。十年前にはウニ漁も行っていたが、現在は行っておらず、ムラサキウニは増加の一方であり、サザエ・アワビ等のえさ場となるホンダワラ類を中心に減少しているため、次世代漁業者に向けた水産資源の維持・確保が課題となっている。

4. 保全活動の実施状況及び効果

(1) 本年度の活動実施状況

実施日	活動区分	活動内容	参加者数	備考
R5. 6. 7	モニタリング	藻場状況の確認	4 名	高浜地区鷹島周辺
R5. 7. 4	保全活動	藻場の保全活動 (有害生物の除去)	4 名 2,080 個	高浜地区鷹島周辺
R5. 9. 14	保全活動	藻場の保全活動 (有害生物の除去)	4 名 3,300 個	高浜地区鷹島周辺
R5. 9. 20	保全活動	藻場の保全活動 (有害生物の除去)	3 名 2,300 個	高浜地区鷹島周辺
R5. 11. 24	保全活動	藻場の保全活動 (母藻の設置)	1 名	ワカメの種苗 糸設置準備
R5. 12. 1	保全活動	藻場の保全活動 (母藻の設置)	1 名	ワカメの種苗 糸設置準備
R5. 12. 2	保全活動	藻場の保全活動 (母藻の設置)	1 名	ワカメの種苗 糸設置準備
R5. 12. 15	保全活動	藻場の保全活動 (母藻の設置)	2 名	ワカメの種苗 糸設置準備
R6. 1. 5	保全活動	藻場の保全活動 (母藻の設置)	1 名	ワカメの種苗 糸設置準備
R6. 1. 17	保全活動	藻場の保全活動 (母藻の設置)	1 名	ワカメの種苗 糸設置準備
R6. 1. 18	保全活動	藻場の保全活動 (母藻の設置及び、 有害生物の除去)	2 名 400 個	ワカメの種苗 糸設置準備

R6. 1. 22	保全活動	藻場の保全活動 (母藻の設置)	2 名	ワカメの種苗 糸設置準備
R6. 1. 31	廃棄物の利活用	廃棄物の利活用 (試作)	—	高浜地区
R6. 2. 7	廃棄物の利活用	廃棄物の利活用 (試作)	—	高浜地区
R6. 2. 9	保全活動	藻場の保全活動 (母藻の設置)	2 名	ワカメの種苗 糸設置準備
R6. 2. 13	保全活動	藻場の保全活動 (母藻の設置)	2 名	ワカメの種苗 糸設置
R6. 2. 14	保全活動	藻場の保全活動 (母藻の設置)	2 名	ワカメの種苗 糸設置
R6. 2. 14	廃棄物の利活用	廃棄物の利活用 (試作)	—	高浜地区
R6. 2. 21	廃棄物の利活用	廃棄物の利活用 (試作)	—	高浜地区

延活動人員 32 名

活動実施は令和 6 年 2 月 21 日迄

(2) 活動内容写真

「藻場の保全」海藻等の定点モニタリング



「藻場の保全」 有害生物の除去



「藻場の保全」 活動参加者



「藻場の保全」 母藻の設置（納品）



「藻場の保全」 母藻の設置（設置準備）



「藻場の保全」 母藻の設置



「廃棄物の利活用」



「藻場保全」 高浜小学校のウニ駆除見学



(3) 広報活動

「水産多面的機能発揮対策」の活動を高浜小学校の生徒に総合学習の一環として見学してもらい、海の現状、藻場の大切さ、漁業者の思い等、活動内容について、地域の子どもたちに知ってもらうことが出来た。

(4) 効果

「水産多面的機能発揮対策」活動により、藻場に有害なウニの除去を行った結果、目に見える範囲で藻場の環境は活動前と比較すると僅かだが改善傾向にあると思われる。また、ウニを除去するだけでなく、利活用をすることで有害生物とされていたムラサキウニへの意識を変えることができた。今後も継続していくことでより効果が期待される。

5. 今後の課題や計画

十数年前には豊かだった藻場は水産資源を確保する上では必要不可欠であり、「水産多面的機能発揮対策」活動を継続して行い、良漁場の回復に努めていきたい。また引き続き交流の場を広めていき、今後も様々な団体と連携しながら有害生物の利活用や体験学習も取り組み、綺麗な海を守り、海の恵みと一緒に豊かな地域を作っていきたい。